

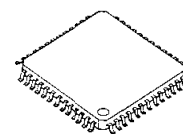
## デジタル電源制御用 DSC

## 概要

NJU20300 は、デジタル電源向けにリアルタイム性の向上を追及し、最適設計された最大動作周波数 31.25MHz の新日本無線オリジナル DSC (デジタル・シグナル・コントローラ) です。

DSP とマイクロ・コントローラの特徴を合わせたハイブリッド型 16 ビット固定小数点 DSP コアと、高速 AD 変換機能、柔軟な PWM 機能など周辺回路を含めた高速応答の実現に向けた機構を備えます。また、プログラマブルなクロック周波数設定機能、各種スリープ機能などシステム構成や仕事量に応じた消費電力管理の実現に向けた機構を備えます。また、60MHz 内蔵発振器、LDO 内蔵による単一電源、コンパレータ用 DAC を持ち、コンパクトな電源システムを構築可能です。

## 外形



NJU20301FR3

## 特徴

## DSPコア

- ・4ステージのインオーダパイプライン
- ・ハーバードアーキテクチャバス
- ・4レベルの優先順位付き割込み
- ・1系統の高速割込み
- ・16ビット長 / 32ビット長混在命令
- ・ロードストアアーキテクチャ
- ・64ビット長の信号処理命令  
(積和演算とメモリアクセスの並列実行)
- ・パイプラインハザード検出口ジック
- ・分岐先アドレスバッファ
- ・2つのハードウェアループ
- ・2つのデータアドレス生成
- ・40ビットの算術論理演算
- ・+16 ~ -16ビットのシフト

## AD変換

- 差動A/D変換器
- ・10ビット精度6ビット分解能 最大6MSPS
- ・差動比較型
- ・4入力/参照 + 内蔵DAC
- ・PWM波形生成器との同期
- A/D変換器
- ・10ビット分解能 最大1MSPS
- ・逐次比較型
- ・8入力 + 2S/H
- ・PWM波形生成器との同期

## PWM波形生成

- ・6出力 / 3チャンネルPWM出力
- ・最小1ns分解能出力
- ・外部イベント連動の出力停止機能

## タイマー

- ・プログラムタイマー
- ・IC/OC/PWM 4チャンネル汎用タイマー

## クロック

- ・内蔵60MHz発振器、XTAL発振器 + PLL選択

## 通信

- ・UART / I2C / SPI

## メモリ

- ・プログラム ワンタイムROM(8kW)
- ・データ/プログラムRAM(2kW)

## IOポート・コンパレータ

- ・12本のIOポート(機能ピンと共用)
- ・DAC付き20ns遅延コンパレータx2

## 電源

- ・LDO内蔵 3V単一電源
- ・デジタル/アナログ 3.0 ~ 3.6V

## 消費電力

- ・135mW@30MHz

## 動作温度

- ・周囲温度 -40 ~ 85
- ・ケース表面温度 -40 ~ 100
- ・ジャンクション温度 -40 ~ 105

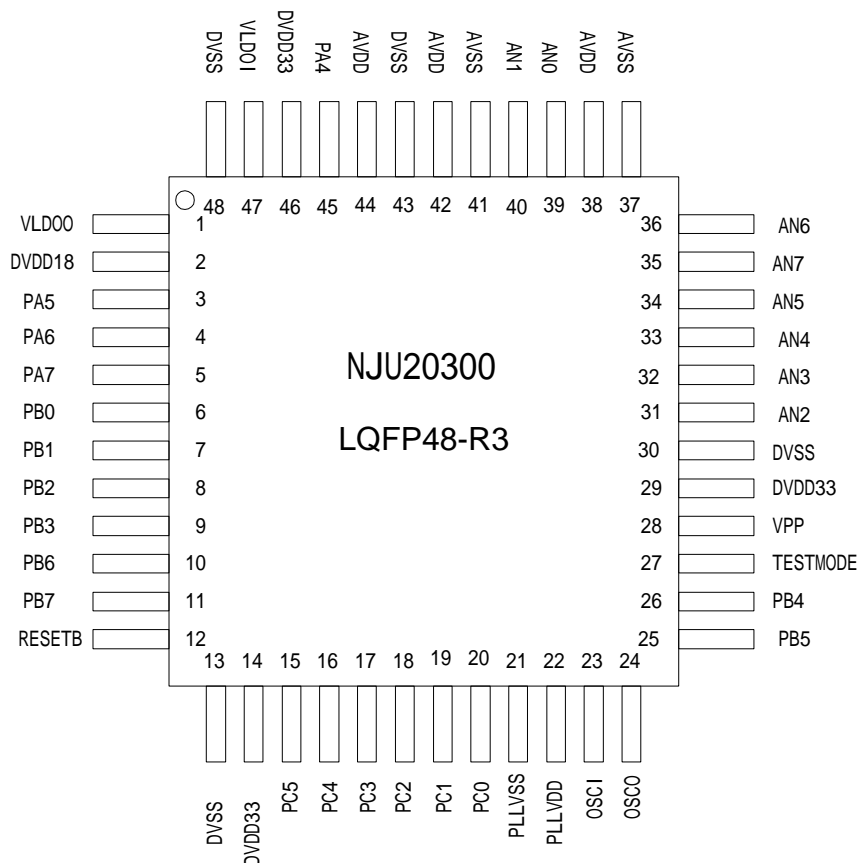
## 構造

- ・CMOS構造

## 外形

- ・LQFP48

## パッケージ図



## 端子説明

機能入出力端子以外にもデジタル内部電源端子、デジタル入出力用の電源端子、アナログ電源端子、PLL専用電源端子が必要になります。

注意)

- 3.3V電源とLDO入力であるVLD01端子はPCB上で太く短く接続する必要があります。1.8V電源とLDO出力であるVLD00端子も同様にPCB上で太く短く接続する必要があります。
- LDO出力であるVLD00端子は1.8Vを出力します。このVLD00端子からグラウンドに3.3μFの積層セラミックキャパシタを最短で接続する必要があります。
- 全てのGND端子はPCB上での配線をIC近傍で接続して下さい。DVDD18とPLLVDD18はPCB上での配線をIC近傍で接続して下さい。VDD33はPCB上での配線をIC近傍で接続して下さい。

記号) I・・・CMOS入力、O・・・CMOS出力、OD・・・オープンドレイン出力、Z・・・ハイインピーダンス、PU・・・プルアップ抵抗付き

**端子機能**

端子番号	記号	I/O (初期状態)	機能
1	VLD00	-	LD0出力 (1.8V)
2	DVDD18	-	内部デジタル電源 (1.8V)
3	PA5	I/O(Z)	汎用入出力ポートA ビット5 コンパレータ0参照入力
4	PA6	I/O(Z)	汎用入出力ポートA ビット6 コンパレータ1入力
5	PA7	I/O(Z)	汎用入出力ポートA ビット7 コンパレータ1参照入力
6	PB0	I/O(Z)	汎用入出力ポートB ビット0
7	PB1	I/O(Z)	汎用入出力ポートB ビット1
8	PB2	I/O(Z)	汎用入出力ポートB ビット2
9	PB3	I/O(Z)	汎用入出力ポートB ビット3
10	PB6	I/O(Z)	汎用入出力ポートB ビット4
11	PB7	I/O(Z)	汎用入出力ポートB ビット5
12	RESETB	I/OD(Z)	外部リセット
13	DVSS	-	デジタルグランド
14	DVDD33	-	デジタルI/O電源
15	PC5	I/O(Z)	汎用入力ポートC ビット5 PWMOB[2]出力
16	PC4	I/O(Z)	汎用入力ポートC ビット4 PWMO[2]出力
17	PC3	I/O(Z)	汎用入力ポートC ビット3 PWMOB[1]出力
18	PC2	I/O(Z)	汎用入力ポートC ビット2 PWMO[1]出力
19	PC1	I/O(Z)	汎用入力ポートC ビット1 PMOB[0]出力
20	PC0	I/O(Z)	汎用入力ポートC ビット0 PWMO[0]出力
21	PLLSS	-	PLLアナロググランド
22	PLLVD	-	PLLアナログ電源 (1.8V)
23	OSCI	I	発振器入力
24	OSCO	O	発振器出力
25	PB5	I/O(Z)	汎用入出力ポートB ビット5
26	PB4	I/O(Z)	汎用入出力ポートB ビット4
27	TESTMODE	I	テストモード
28	VPP	-	OTP書き込み電源 書き込み6.75V/書き込み以外0V
29	DVDD33	-	デジタルI/O電源
30	DVSS	-	デジタルグランド
31	AN2	アナログ	A/D変換器 アナログ 入力2
32	AN3	アナログ	A/D変換器 アナログ 入力3
33	AN4	アナログ	A/D変換器 アナログ 入力4
34	AN5	アナログ	A/D変換器 アナログ 入力5

35	AN7	アナログ	A/D変換器 アナログ 入力7
36	AN6	アナログ	A/D変換器 アナログ 入力6
37	AVSS	-	アナロググランド
38	AVDD	-	アナログ電源
39	AN0	アナログ	A/D変換器 アナログ 入力0
40	AN1	アナログ	A/D変換器 アナログ 入力1
41	AVSS	-	アナロググランド
42	AVDD	-	アナログ電源
43	DVSS	-	デジタルグランド
44	AVDD	-	アナログ電源
45	PA4	I/O(Z)	汎用入出力ポートA ビット4 コンパレータ0入力
46	DVDD33	-	デジタル電源
47	VLD01	-	LD0入力(3.3V)
48	DVSS	-	デジタルグランド

## 電気的特性

### 絶対最大定格

パラメータ		値
ロジック系外部電源電圧 $V_{DVDD1033}$	VSS端子基準	-0.3Vから3.6V
ロジック系内部電源電圧 $V_{DVDD18}$	VSS端子基準	-0.3Vから1.98V
ロジック入力電圧範囲、 $V_{IN}$		-0.3Vから5.5V
アナログ系入力電圧範囲	AVSS端子基準	-0.3VからAVDD33+0.3V
接合温度(Tj)		-40 ~ 125

### 電気的特性

項目		最小	標準	最大	単位
電圧	電源電圧-1.8V系(DVDD18)	1.62	1.80	1.98	V
	電源電圧-3.3V系(DVDD1033, AVDD33)	2.97	3.3	3.63	V
	ロジック入力ローレベル電圧範囲、VIL	-0.3	-	0.8	V

□	ロジック入力ローレベル電圧範囲、VIH	2	-	DVD1033	V
	ロジック入力リーク電流、II (VI=0V/3.3V)	-2	-	2	uA
	ロジックオフリーク電流、Ioz (Vo==0V/3.3V)	-2	-	2	uA
	プルアップ抵抗、RPU	25K	56K	100K	
	プルダウン抵抗、RPD	25K	57K	125K	
	ロジック出力ローレベル電圧、VOL@下記負荷条件	-	-	0.4	V
	ロジック出力ハイレベル電圧、VOH@下記負荷条件	2.4	-	-	V
	ロジック出力ローレベル電流、IOL@VOL	5.0	7.5	10	mA
	ロジック出力ハイレベル電流、IOH@VOH	7.5	15	25	mA
	アナログ入力電圧範囲	-0.3	-	AVDD+0.3	V
周波数	XTAL発振器周波数 <sup>1</sup>	6	-	30	MHz
	内蔵発振器周波数	-	60MHz	-	MHz
	システムクロック周波数	0	-	62.5	MHz
	PLL入力クロック周波数	3.2	20	32 <sup>2</sup>	MHz
	PLL出力VCO周波数	200	-	500	MHz
温度	動作温度：ジャンクション温度(Tj) <sup>3</sup>	-40	-	105	
	周囲温度 (Ta)	-40	-	85	
	保存温度 (OTPROMのデータ保持を除く)	-50	-	125	
	保存温度(OTPROMのデータ保持 <sup>4</sup> )	-40	-	85	

<sup>1</sup>発振周波数により発振回路と水晶発振子パラメータ選択必要あり

<sup>2</sup>SIIM/PLLのCLKOPTビットを0x00にした条件

<sup>3</sup>デバイスの動作保証はジャンクション温度(Tj)で定まる

<sup>4</sup>保存可能時間を保証するものではない

## 1 NJU20300概要

このNJU20300はデジタル電源制御DSC向けの16ビットのDSPである"XIM016"をコアとした、制御用DSPマイコン(DSC)であり、電源制御やモーター制御に必要な基本的なモジュールを内部に持ちます。

このNJU20300の特徴は：

- ・ デジタル電源やモーター制御などの制御向けLSI
- ・ DSPコア31.25MHz動作バージョンXIM016B
- ・ 差動ADC (DAD) -4ch/6-bit/6MSPS@最大10bit精度
- ・ 逐次比較型ADC変換(PSATD2) -8ch/10bit/1MSPS
- ・ PWM出力(PSPWM2) -3ch/6出力@最小1ns/2ns分解能
- ・ アナログコンパレータ(COMP) -非同期x2 (応答時間20ns) /同期x1、DAC-10ビットx2
- ・ 通信-I2C, UART, SPI
- ・ 汎用タイマ-時間管理(RTM)、OC/IC/PWM/QEI機能(GPT2)
- ・ プログラムメモリ-OTP ROM 8kW
- ・ データメモリ/プログラムメモリ兼用-Dual-Port RAM 2kW
- ・ 48ピンQFPパッケージ
- ・ 内蔵発振器(~62.5MHz)/XTAL発振器(+PLL(最大250MHz))選択
- ・ 3.3V単一電源(LDO内蔵)
- ・ 小型、省消費電力
- ・ システム制御-クロック/リセット/割り込み/WDT、スリープモードと復帰
- ・ システム保護機能-クロック監視、PLL動作異常、パワーオン検出、電源電圧監視、ウォッチドッグリセット、バスエラーモニター、不正割り込み検出

尚、デバッグ専用デバイスでは以下の機能を持ちます。

- ・ デバッグ-JTAG-IF
- ・ デバッグ用外部メモリインターフェース機能

外部端子は、機能入出力端子、デジタル内部電源端子、デジタル入出力用の電源端子、アナログ電源端子、PLL専用電源端子で構成されます。すべての出力端子と入出力端子はリセット端子によりデバイス内のクロックに非同期でハイインピーダンス状態になります。

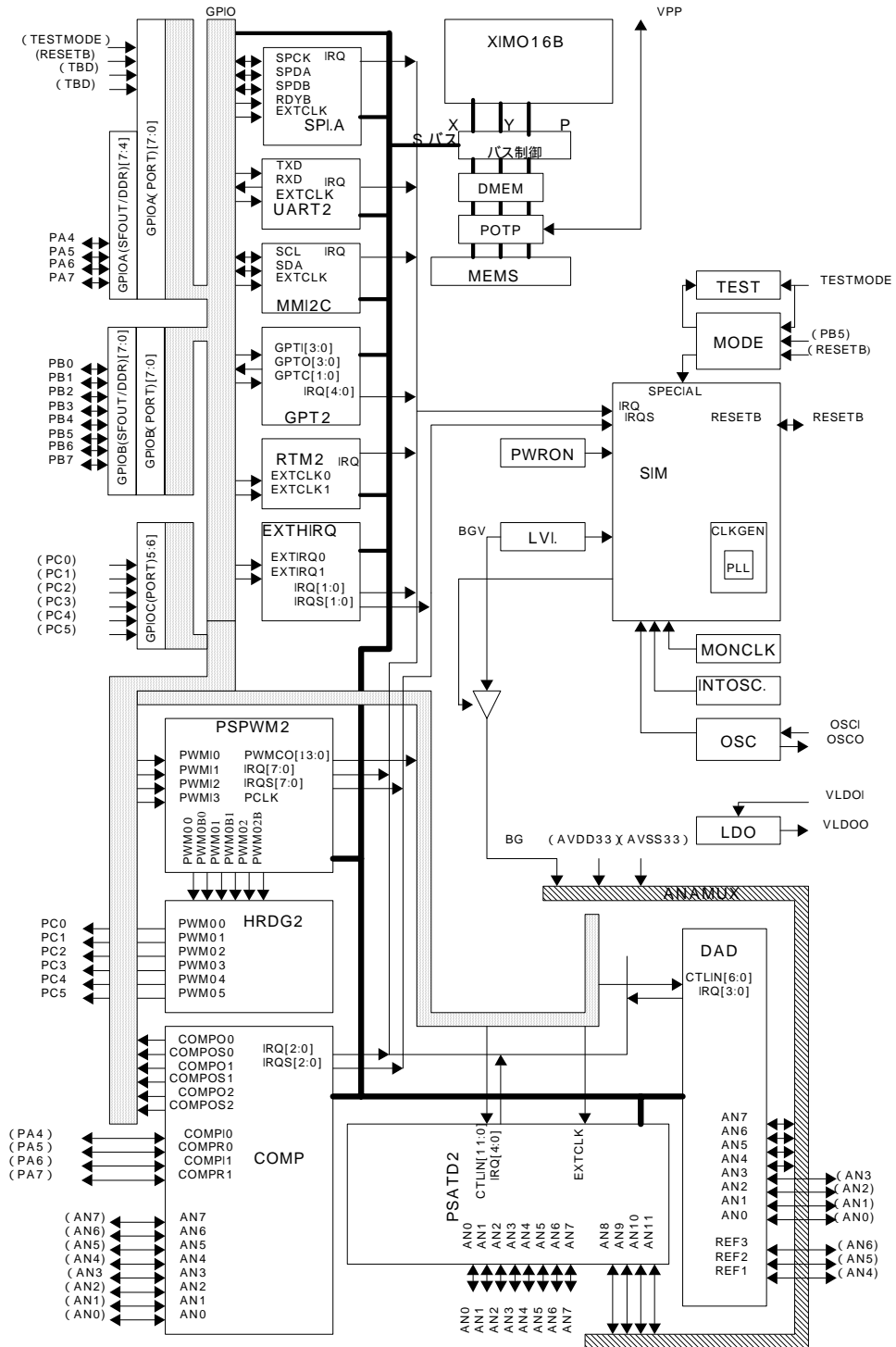


図1-1: NJU20300 データシートブロック図

## 1.1 機能オプション

NJU2030xシリーズのデバイスは機能オプションとして、内蔵発振器とXTAL外部発振器の発振器選択、LDO使用 / 不使用の選択、SLEEP命令実行時のSTOP動作の許可 / 不許可の選択が可能です。

このNJU20300の機能オプションはSTOP動作の不許可が固定化され、内蔵発振器とXTAL外部発振器の発振器選択、LDO使用 / 不使用の選択が可能です。

表 1：機能オプション

機能オプション	オプション	
発振器選択	内蔵発振器	XTAL発振器
LDO使用	LDO不使用	LDO使用
SLEEP命令STOP動作	STOP動作不使用	

### 1.1.1 動作モード

このデバイスにはテスト動作を示すテストモードと、ユーザー動作を示すユーザーモード及びブートモードがあります。ユーザーモードとブートモードは例外処理ベクタが異なり、ブートモードはデバイス起動時にブートROMコードを実行するように動作します。(ブートモードのリセットベクタはブートROMコードの先頭アドレスを指し示します。)

各モードエントリーはTESTMODE端子、RESETB端子とPB端子の状態で定められます。尚、TESTMODE端子がローレベルであるときは、常にユーザーモードでの動作になります。

#### ブートモード

ブートモードではチップ内蔵されたブートプログラムが実行されMMI2CあるいはUARTを使用して、内部メモリにデータを書き込みます。この端子による起動デバイスの選択はソフトウェアによりGPIOモジュールを通して行われます。

RESETB端子の立ち上がり時にTESTMODE端子がハイレベル、PB5端子がハイレベルのときにブートモードとしての動作になります。このとき、PB5端子がローレベルであるときの動作は保証されません。このとき、PB2端子とPB3端子により、UARTとMMI2Cの設定をします。尚、ブート動作ではUART2とMMI2CモジュールがPB0端子とPB1端子を使用します。

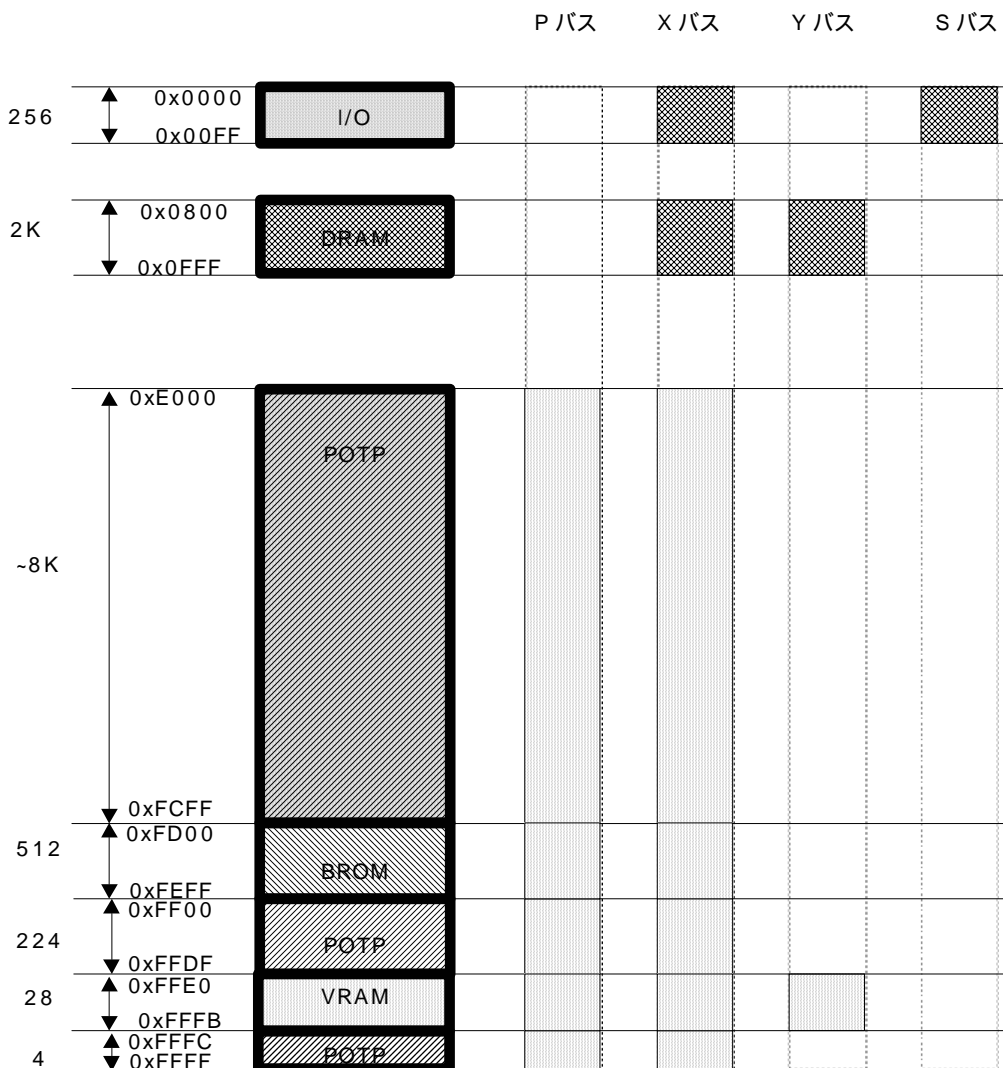
- PB2端子とPB3 端子が共にハイレベルであるとマスター動作によるMMI2Cによるブート起動になります。
- PB2端子がハイレベル、かつ、PB3 端子がローレベルであるとスレーブ動作によるMMI2Cによるブート起動になります。
- PB2端子がローレベル、かつ、PB3 端子がハイレベルであると、UART2によるブート起動になります。
- PB2端子とPB3端子がローレベルであると、即座にブートジャンプをします。



## 1.2 アドレスマップとメモリ

このデバイスは64Kワードのアドレス空間のうち、0x0000から0x00ffまでを256ワードのI/O空間、0x800から0x0FFFまでをデータ用RAMから成るDRAM、0xE000から0xFFFFまでをプログラム用メモリとして、ユーザープログラムや例外処理ベクタやブートメモリ空間を持ち、OTPROMやRAMからなるPMEMとします。

図1-2: メモリマップ



## 1.2.110レジスタマップ

ペリフェラルモジュールは0x0000から0xffの256ワードのアドレス空間におかれます。バス接続はSバスになります。10領域レジスタは0x0000からのオフセットアドレスになります。

表 2 : 10領域レジスタ

アドレス	モジュール	レジスタ名	
0x00	SIM	SIMコンフィグ	SIMCFG
0x01		SIM制御0	SIMCTL0
0x02		SIM制御1	SIMCTL1
0x03		生成器制御	SIMCGEN
0x04		COP制御	SIMCOPCL
0x05		COPデータ	SIMCOPDT
0x06		WUT制御	SIMWUT
0x07		内蔵発振器制御	SIMIOSC
0x08		SIM割込み制御0	SIMINT0
0x09		SIM割込み制御1	SIMINT1
0x0a		SIM割込み制御2	SIMINT2
0x0b		SIM割込み制御3	SIMINT3
0x0c		SIM割込み状態	SIMINTS
0x0d		システム例外処理	SIMEXCP
0x0e		バスエラー制御	SIMBEL
0x0f		バスエラーアドレス	SIMBERAD
0x10-1f	(内部使用)	(内部使用)	
0x20	MEMS	メモリコンフィグ	MEMCFG
0x21		メモリ制御0	MEMCTL0
0x22		メモリ制御1	MEMCTL1
0x23		メモリ制御2	MEMCTL2
0x24		メモリオプション0	MEMOPT0
0x25		メモリオプション1	MEMOPT1
0x26-27	(内部使用)	(内部使用)	
0x28	COMP	コンパレータ制御0	COMPCTL0
0x29		コンパレータ制御1	COMPCTL1
0x2a		コンパレータDAC0データ	COMP0DAC

0x2b	□	コンパレータDAC1データ	COMP1DAC
0x2c	EXTHIRQ	外部高速割り込み制御	EXTHIRQ
0x2d		(予約)	
0x2c-2f	(予約)		
0x30	RTM2	RTM制御	RTMCTL
0x31		RTMカウンタA	RTMCTA
0x32		RTMカウンタB	RTMCTB
0x33		RTMチャンネル制御	RTMCHCTL
0x34		RTMチャンネル0比較	RTMCHO
0x35		RTMチャンネル1比較	RTMCH1
0x36		RTMチャンネル2比較	RTMCH2
0x37		RTMチャンネル3比較	RTMCH3
0x38	SPI.A	SPIコンフィグ	SPICFG
0x39		SPI制御	SPICTL
0x3a		SPIデータ	SPIDAT
0x3b		(予約)	
0x3c-3f	(予約)		
0x40	UART2	UARTコンフィグ0	UARTCFG0
0x41		UARTコンフィグ1	UARTCFG1
0x42		UARTコンフィグ2	UARTCFG2
0x43		UART制御	UARTCTL
0x44		UART状態	UARTSTAT
0x45		UARTデータ	UARTDAT
0x46		UARTLIN0	UARTLIN0
0x47		UARTLIN1	UARTLIN1
0x48	MMI2C	I2Cコンフィグ	I2CCFG
0x49		I2Cコンフィグ2	I2CCFG2
0x4a		I2C制御	I2CCTL
0x4b		I2Cステータス	I2CSTA
0x4c		I2Cデータ	I2CDAT
0x4d-f		(予約)	
0x50	GPT2	GPT制御0	GPTCTL0

0x51	□	GPT制御1	GPTCTL1
0x52		GPT制御2	GPTCTL2
0x53		-	-
0x54		GPTコンフィグ0	GPTCFG0
0x55		GPTコンフィグ1	GPTCFG1
0x56		GPTコンフィグ2	GPTCFG2
0x57		GPTコンフィグ3	GPTCFG3
0x58		GPTコンフィグ4	GPTCFG4
0x59		GPTコンフィグ5	GPTCFG5
0x5a		GPTカウンタAデータ	GPTCTA
0x5b		GPTカウンタBデータ	GPTCTB
0x5c		GPTチャンネル0データ	GPTCH0DT
0x5d		GPTチャンネル1データ	GPTCH1DT
0x5e		GPTチャンネル2データ	GPTCH2DT
0x5f		GPTチャンネル3データ	GPTCH3DT
0x60	PSATD2	ATDコンフィグ	ATDCFG
0x61		(使用禁止)	
0x62		ATD制御0	ATDCTL0
0x63		ATD制御1	ATDCTL1
0x64		ATDチャンネル0	ATDCH0
0x65		ATDチャンネル1	ATDCH1
0x66		ATDチャンネル2	ATDCH2
0x67		ATDチャンネル3	ATDCH3
0x68		ATDチャンネル4	ATDCH4
0x69		ATDチャンネル5	ATDCH5
0x6a		ATDチャンネル6	ATDCH6
0x6b		ATDチャンネル7	ATDCH7
0x6c		ATDチャンネル8	ATDCH8
0x6d		ATDチャンネル9	ATDCH9
0x6e		ATDチャンネル10	ATDCH10
0x6f		ATDチャンネル11	ATDCH11
0x70		ATDチャンネル12	ATDCH12
0x71		ATDチャンネル13	ATDCH13

0x72	□	ATDチャンネル14	ATDCH14
0x73		ATDチャンネル15	ATDCH15
0x74		(予約)	
0x75		(予約)	
0x76		(使用禁止)	
0x77		(使用禁止)	
0x78		ATDデータレジスタ0	ATDDAT0
0x79		ATDデータレジスタ1	ATDDAT1
0x7a		ATDデータレジスタ2	ATDDAT2
0x7b		ATDデータレジスタ3	ATDDAT3
0x7c		ATDデータレジスタ4	ATDDAT4
0x7d		ATDデータレジスタ5	ATDDAT5
0x7e		ATDデータレジスタ6	ATDDAT6
0x7f		ATDデータレジスタ7	ATDDAT7
0x80		DAD	DADコンフィグ
0x81	DAD制御		DADCTL
0x82	(使用禁止)		
0x83	(使用禁止)		
0x84	DADチャンネル0コンフィグ		DAD0CFG
0x85	DADチャンネル1コンフィグ		DAD1CFG
0x86	DADチャンネル2コンフィグ		DAD2CFG
0x87	DADチャンネル3コンフィグ		DAD3CFG
0x88	DADチャンネル0制御		DAD0CTL
0x89	DADチャンネル1制御		DAD1CTL
0x8a	DADチャンネル2制御		DAD2CTL
0x8b	DADチャンネル3制御		DAD3CTL
0x8c	DADチャンネル0データ		DAD0DAT
0x8d	DADチャンネル1データ		DAD1DAT
0x8e	DADチャンネル2データ		DAD2DAT
0x8f	DADチャンネル3データ		DAD3DAT
0x90-9f	(予約)		

0xa0	PSPWM2	PWMコンフィグ0	PWMCFG0	
0xa1		PWMコンフィグ1	PWMCFG1	
0xa2		PWMチャンネルコンフィグ00	PWMCCFG00	
0xa3		PWMチャンネルコンフィグ10	PWMCCFG10	
0xa4		PWMチャンネルコンフィグ20	PWMCCFG20	
0xa5		PWMチャンネルコンフィグ30	PWMCCFG30	
0xa6		PWMチャンネルコンフィグ01	PWMCCFG01	
0xa7		PWMチャンネルコンフィグ11	PWMCCFG11	
0xa8		PWMチャンネルコンフィグ21	PWMCCFG21	
0xa9		PWMチャンネルコンフィグ31	PWMCCFG31	
0xaa		PWMチャンネルコンフィグ02	PWMCCFG02	
0xab		PWMチャンネルコンフィグ12	PWMCCFG12	
0xac		PWMチャンネルコンフィグ22	PWMCCFG22	
0xad		PWMチャンネルコンフィグ32	PWMCCFG32	
0xae-b1		(使用禁止)		
0xb2		PWM制御0	PWMCTL0	
0xb3		PWM制御1	PWMCTL1	
0xb4		PWM割込み制御0	PWMIRQ0	
0xb5		PWM割込み制御0	PWMIRQ1	
0xb6		PWM状態0	PWMSTAT0	
0xb7		PWM状態1	PWMSTAT1	
0xb8		PWMチャンネル制御0	PWMCCTL0	
0xb9		PWMチャンネル制御1	PWMCCTL1	
0xba		PWMチャンネル制御2	PWMCCTL2	
0xbb		PWMチャンネル制御3	PWMCCTL3	
0xbc		PWM0カウンタデータ	PWMCNT0	
0xbd		PWM1カウンタデータ	PWMCNT1	
0xbe		PWM2カウンタデータ	PWMCNT2	
0xbf		PWM3カウンタデータ	PWMCNT3	
0xc0		PWM0データ0	PWMODAT0	
0xc1		PWM0データ1	PWMODAT1	

0xc2	□	PWM0データ2	PWM0DAT2
0xc3		PWM0データ3	PWM0DAT3
0xc4		PWM0データ4	PWM0DAT4
0xc5		PWM0データ5	PWM0DAT5
0xc6		PWM0データ6	PWM0DAT6
0xc7		PWM0データ7	PWM0DAT7
0xc8		PWM1データ0	PWM1DAT0
0xc9		PWM1データ1	PWM1DAT1
0xca		PWM1データ2	PWM1DAT2
0xcb		PWM1データ3	PWM1DAT3
0xcc		PWM1データ4	PWM1DAT4
0xcd		PWM1データ5	PWM1DAT5
0xce		PWM1データ6	PWM1DAT6
0xcf		PWM1データ7	PWM1DAT7
0xd0		PSPWM	PWM2データ0
0xd1	PWM2データ1		PWM2DAT1
0xd2	PWM2データ2		PWM2DAT2
0xd3	PWM2データ3		PWM2DAT3
0xd4	PWM2データ4		PWM2DAT4
0xd5	PWM2データ5		PWM2DAT5
0xd6	PWM2データ6		PWM2DAT6
0xd7	PWM2データ7		PWM2DAT7
0xd8-df		(使用禁止)	
0xe0	HRDG	HRDG制御0	HRDGCTL0
0xe1		HRDG制御1	HRDGCTL1
0xe2		HRDG制御2	HRDGCTL2
0xe3		HRDG制御3	HRDGCTL3
0xe4		HRDG制御4	HRDGCTL4
0xe5		HRDG制御5	HRDGCTL5
0xe6		HRDG制御6	HRDGCTL6
0xe7		HRDG制御7	HRDGCTL7

0xe8-ef	(予約)		
0xf0	GPIO	ポート0	PORT0
0xf1		ポート1	PORT1
0xf2		ポート出力設定	DDR
0xf3		ポートモジュール出力設定	MODOUT
0xf4		ポート機能	PORTFUNC
0xf5		入力ブリッジ	GPIOBG
0xf6-f7		(予約)	
0xf8-ff	(予約)		



## 2 割り込み

### 2.1 割り込みベクタ

割り込みベクタは以下に割り付けられます。

表 3：割り込み要求モジュールとベクタアドレス

例外処理リソース	例外番号	ベクタアドレス	
		ユーザーモード	ブートモード
リセット	0	0xFFFF	0xFFEF
DEBUG命令	1	0xFFFE	0xFFEE
不正動作	2	0xFFFD	0xFFED
不正割り込み	3	0xFFFC	0xFFEC
ペリフェラル割り込み0	4	0xFFFB	0xFFEB
ペリフェラル割り込み1	5	0xFFFA	0xFFEA
ペリフェラル割り込み2	6	0xFFF9	0xFFE9
ペリフェラル割り込み3	7	0xFFF8	0xFFE8
ペリフェラル割り込み4	8	0xFFF7	0xFFE7
ペリフェラル割り込み5	9	0xFFF6	0xFFE6
ペリフェラル割り込み6	10	0xFFF5	0xFFE5
ペリフェラル割り込み7	11	0xFFF4	0xFFE4
ペリフェラル割り込み8	12	0xFFF3	0xFFE3
ペリフェラル割り込み9	13	0xFFF2	0xFFE2
ペリフェラル割り込み10	14	0xFFF1	0xFFE1
ペリフェラル割り込み11	15	0xFFF0	0xFFE0

不正動作割り込み等のシステム機能ではない、ユーザー機能による割り込みソースは全部で24本あります。これらの割り込みソースはモジュール仕様で管理されています。これらの割り込みソースを割り込み要求入力番号に合わせて、ホスト設定によりペリフェラル割り込み0から11にマッピングをする必要があります。

に例外処理リソースと割り込み要求入力番号、そしてスリープ動作に於ける動作を示します。

シリアル通信関係のモジュール(UART2、MMI2C、SPI.A)はそれぞれ1本ずつ計3本の割り込みソースを持っていますが1本に集約、COMPが持つ3本の割り込みは1本に集約、GPT2が持つ5本の割り込みも1本に集約されます。論理和回路でこれらの3つの割り込みの集約が行われます。

表 4：例外処理ソース

例外処理リソース		スリープ動作			割込み要求入力番号	INTINUMビット
モジュール	信号	IDLE	DOZE	SIESTA		
SIM	リセット				-	-
	DEBUG命令		-			
	不正動作					
	不正割り込み			-		
EXTHIRQ	外部割込み0				0	INTINUM[0]
	外部割込み1				1	INTINUM[1]
RTM2	割込み要求		-	-	2	INTINUM[2]
UART2,MMI2C,SPI.A	割込み要求		-	-	3	INTINUM[3]
GPT	割込み要求[4:0]		-	-	4	INTINUM[4]
SIM(WUT)	割込み要求				5	INTINUM[5]
COMP	割込み要求[2:0]				6	INTINUM[6]
DAD	割込み要求[0]		-	-	7	INTINUM[7]
	割込み要求[1]				8	INTINUM[8]
	割込み要求[2]				9	INTINUM[9]
	割込み要求[3]				10	INTINUM[10]
PSPWM2	割込み要求[0]				11	INTINUM[11]
	割込み要求[1]				12	INTINUM[12]
	割込み要求[2]				13	INTINUM[13]
	割込み要求[3]				14	INTINUM[14]
	割込み要求[4]				15	INTINUM[15]
	割込み要求[5]				16	INTINUM[16]
	割込み要求[6]				17	INTINUM[17]
	割込み要求[7]				18	INTINUM[18]
PSATD2	割込み要求[0]		-	-	19	INTINUM[19]
	割込み要求[1]				20	INTINUM[20]
	割込み要求[2]				21	INTINUM[21]
	割込み要求[3]				22	INTINUM[22]
	割込み要求[4]				23	INTINUM[23]
(使用禁止)		-	-	-	24-31	INTINUM[24-31]

### 3 ブートモード

ブートプログラムはブートモードからブートROMコードを実行することで動作をします。そのブートプログラムは

MMI2CあるいはUART2を使用して、内部メモリにデータを書き込みます。詳細についてはブートプログラムを参照してください。

## 4 その他の機能

### 4.1 バスエラー

バスエラーを出力する動作は内部バス制御部とIOバス制御部が行います。バスエラーを検出すると、内部バス制御部が内部モジュールに対して、バスアクセス強制終了（バスターミネート）要求をアサートし、以下のモジュールのうち、バスアクセスを行っているモジュールはその信号を受けてバスアクセスを強制終了します。

表 5：バスエラーを発生しうるモジュール

モジュール	備考
RTM2	
GPT2	
PSPWM2	
PSATD2	
バス制御(SIM)	
メモリ(MEMS)	

### 4.2 JTAG

デバイスIDは0x000035a5になります。その内訳は、新日本無線(株)の生産者番号は0x52(バンク6)、バージョンは0x0と部品番号は0x0003です。

表 6：デバイスID

デバイスID[31:0]				
ビット位置	[31:28]	[27:12]	[11:1]	[0]
ビット長	4	16	11	1
内容	バージョン	部品番号	生産者番号	固定値
コード	0000	0000 0000 0000 0011	010 1101 0010	1

## 5 SIM(System-Integration-Module)

LSI全体の制御はこのSIM (System-Integration-Module)で行われます。このSIMは内部はクロック制御、割込み例外制御、リセット制御、テストモードエントリー部からなります。このモジュールにはスキャンパスは使用されません。また、このSIMはDSPコアであるXIMO16Bと直に接続されたモジュールになります。

システム保護機能として、クロック監視、PLL動作異常、パワーオン検出、電源電圧監視、ウォッチドッグリセット、バスエラーモニター、不正割り込みなどがあります。

### 5.1 電源部

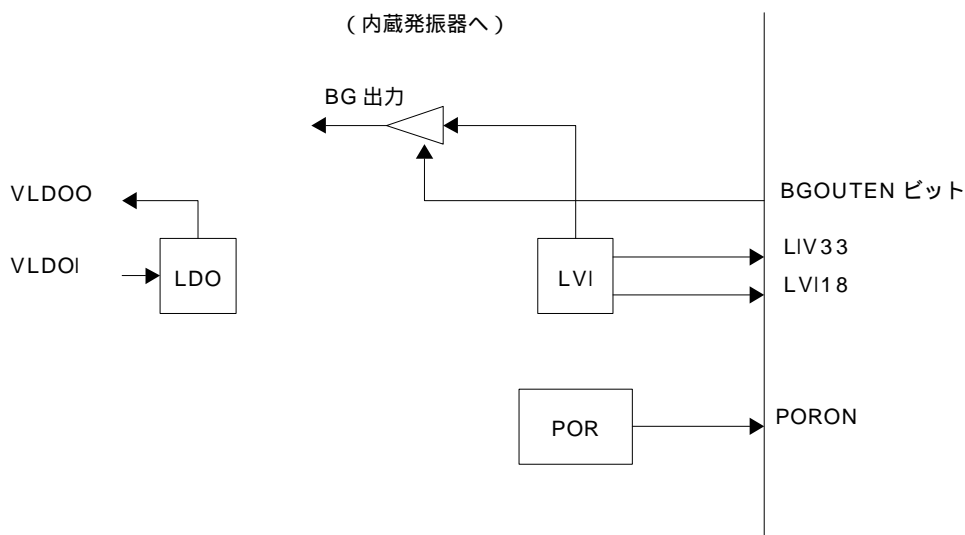
電源制御は3.3Vからデジタル用電源1.8Vを生成するLDO、LVIや内蔵発振器、そしてバッファを通してA/D変換器にバンドギャップ電圧を生成するBG出力、内部3.3V電源と1.8V電源の電圧監視を行うLVI、1.8Vの電源投入を検出するPORからなります。

- LDO回路はVLDO1端子に入力した2.5V以上の電圧から1.8Vの電圧を生成しVLDO0端子に出力します。
- LVI回路はデジタル用1.8V電源が検出電圧以下になると1.8V用LVIリセット状態を出力、また、アナログ用3.3V電源が検出電圧以下になると3.3V用LVIリセット状態を出力します。そして、デジタル1.8V電源の電圧検出電圧以上になると1.8V用LVIリセット状態から抜け、また、アナログ用3.3V電源が検出電圧以下上になると3.3V用LVIリセット状態から抜けます。この両方のLVIリセット状態から抜けるとLVIリセット解除となります。

このLVIにはヒステリシス動作はありません。

- PWRON回路は電源投入時にはデジタル回路をパワーオンリセット状態にします。そして、デジタル用1.8V電源が検出電圧以上になるとパワーオンリセット状態から抜けて動作状態に移行可能にします。LVI回路は内部使用のBG出力用にバンドギャップ電圧を生成します。

図5-1: 電源部概念図



## 5.2 クロック

発振器オプション選択により、SIM外部に接続されるXTALを使用したXTAL発振器、あるいは内蔵発振器でクロックを生成します。オプション選択により、内蔵発振器あるいはXTAL発振器が発振クロック (gclk) になります。LSI外部からクロックを入力するには、XTAL発振器オプションを選択し、OSCO端子をオープン、OSCI端子から外部クロックを入力します。

内蔵発振器をオプション選択であればXTAL発振器は停止、XTAL発振器をオプション選択であれば内蔵発振器は停止状態になります。

発振クロック (gclk) を1/2分周したものが、内部使用する基本クロック (iclk) になります。

発振クロック (gclk) を生成器に入力し通倍クロックと生成器クロックを生成します。内部がリセット状態にあるときは生成器は初期化され停止し、CLKSELビットが0x0に設定され、基本クロック (iclk) がメインクロックとなります。ソフトウェアにより生成器を動作開始させ、生成器クロックをメインクロック (mclk) にすることも可能です。

CLKSELビットで基本クロック (iclk)、発振クロック (gclk)、生成器クロックのいずれかから、メインクロック (mclk) を生成します。メインクロック (mclk) からシステムクロック (suysclk) を生成して、LSI内部に分配されます。

### クロック系の特徴

- DSPコア、メモリ、PWM生成以外の周辺機能用システムクロックと独立したPWM生成クロック
- 動的動作周波数設定可能と各種スリープ動作
- 機能、負荷に応じた消費電力制御が可能

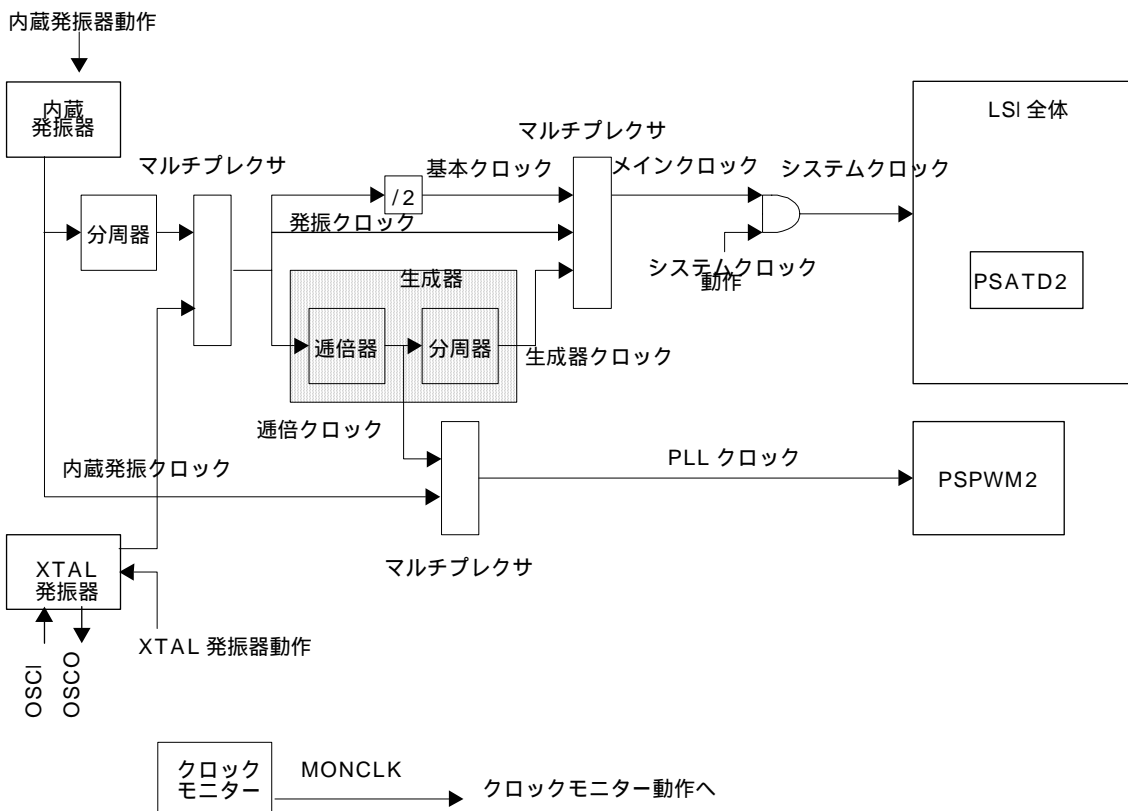


図5-2: クロック系統図

### 5.2.1 発振器

発振器はXTALを使用するXTAL発振器と内蔵RCを使用する内蔵発振器があり、オプションによりどちらかを選択します。尚、生成器の逡倍器（PLL）を使用する際にはXTAL発振器を選択しなくてはなりません。

発振器周波数、内蔵発振器周波数、生成器内のPLLの入力周波数と出力周波数、システムクロック周波数、PLLクロック周波数には最大値と最小値を持ちます。

表 7：周波数

リソース	標準（参考）
XTAL発振器	16MHz/20MHz
内蔵発振器	60MHz
PLL入力	16MHz
PLL出力（pclk）	125MHz
システムクロック	31.25MHz
iclk	16.125MHz
gclk	31.25MHz

#### XTAL発振器

XTAL発振器オプションを選択すると発振クロック（gclk）はOSCI/OSCOに接続されるXTAL発振器より生成されます。生成器の逡倍器（PLL）を使用する際にはこのXTAL生成器オプションを選択しなければなりません。

OSCI信号はXTAL発振器入力、または外部クロック入力となります。OSCO信号はXTAL発振器出力となります。また外部クロックを入力する場合は使用しません。

XTAL発振器が動作を始めクロックを出力し始めた後、安定動作とみなされると、クロックが出力されます。外部の電源電圧が低下状態、あるいは、内蔵発振器オプションが選択される場合には、XTAL発振器は停止します。

#### 内蔵発振器

内蔵発振器オプションを選択すると、発振クロックgclkは内蔵発振器より生成されます。内蔵発振器が動作を開始し、安定動作とみなされると、内蔵発振器から発振クロックが出力されます。

外部の電源電圧が低下状態、あるいはXTAL発振器オプション選択では内蔵発振器は停止します。

内蔵発振器は発振周波数をホストレジスタビットの設定で調整することが可能です。

### 5.2.2 生成器

発振クロック（gclk）をPLLにより逡倍、分周器で分周、そして望む周波数の生成器クロックを生成します。リセット状態であるときは生成器は初期化、パワーダウン状態であり、ホストレジスタビットは初期化されます。コールドリセットでは生成器はパワーダウンモードになります。

生成器の逡倍器（PLL）を使用する際にはこのXTAL生成器オプションを選択しなければなりません

リセット状態にあるとき、生成器の動作は停止された状態にあります。リセット復帰後、ホストがソフトウェア設定で生成器の動作を開始させる必要があります。生成器の動作は停止しているとき、システムは基本クロック

(iclk)と同じ周波数で動作しています。

ソフトウェアにより生成器を動作させると、OSCクロック周波数を逡倍したPLLクロックを生成します。そして、このPLL出力のクロックは、1)PSPWM2 2)分周してシステムクロックとして配られ、それぞれの設定に従って動作クロックを生成します。

### 5.2.3低消費電力動作

低消費電力動作には生成器の逡倍比と分周比を設定してマスタ - クロックの周波数を変える方法とsleep命令実行によるスリープ動作による方法があります。

#### 5.2.3.1ソフトウェアによる生成器の設定値変更

生成器内の分周器に対するパラメータ変更による生成クロック信号の周波数変更は、PLLを含む逡倍器の動作には無関係であるので比較的短い回復時間でクロック出力を開始します。

生成器内の逡倍器に関するパラメータ変更では、逡倍器のPLLの動作を変更することになるので、PLL動作の変更そして安定後に、クロック出力を開始することになります。このような生成器の設定値変更は動作安定するまで、生成器クロックは停止されます。

#### 5.2.3.2スリープ動作

SLEEP命令実行したとき、スリープ動作の各状態に移行します。スリープ動作にはSIESTA、DOZE、WAIT、IDLEの各状態があります。それらのステージでは以下の内部動作をすることにより、消費電力を下げることになります。スリープ動作からの復帰はリセットあるいは割り込みからになります。割り込みからの復帰はこのスリープ動作固有のステートフローを使用しますが、リセットからの復帰はリセットのステートフロー内の動作になります。

スリープ-SIESTA動作では生成器を停止させますが、GENENビットをクリアした生成器停止状態からのスリープ-SIESTA動作であれば、PLLの電源を遮断された状態になり、一層の低消費電力動作が可能になります。す。

また、スリープ状態からの復帰条件はインテグレーションによって定められます。

### リセット

リセット制御部は多種のリセットソースから内部リセットを生成します。これにより、外乱によるシステム保護を可能にします。リセットソースは内部リセット、発振器、生成器、クロック出力動作に影響を与えます。

リセットソースの種類によって、コールドリセット、エラーリセット、通常リセットの種類の動作があります。リセットソースは外部端子だけではなく、いくつか存在します。リセット解除後、そのリセット要因を知ることが出来ます。このリセットソースにより内部動作の停止制御がおこなわれます。ります。内部リセット解除後に、SOFTTRSTビットのセットでソフトウェアリセットを確認出来ます。リセット要因のうち、コールドリセット、クロックモニターリセット、生成器エラーリセット、システムエラーリセット、COP内部リセット、ソフトウェアリセットはリセット出力RESETOUT信号として外部に出力されます。

リセット端子の接続はインテグレーションによって異なりますが、標準ではリセット出力RESETOUTおよびCOP外部リセット出力COPOUTは外部リセット入力信号とWired ORで接続され、RESETB端子より入力される外部リセット信号となります。

COP機能はシステムが正常に動作しているかを検出するハードウェアです。別名WDT(Watch-Dog-Timer)とも呼ばれます。基本クロック(iclk)を最長 $2^{24}-1$ (16777215サイクル:1.6Hz~@27MHz)間隔で動作チェックをする事が可能です。バスタイムアウトは内部バスに接続されたペリフェラルはアクセス時間の延長を図ることが出来ます。しかしながら、なんらかの問題でペリフェラルがバスを開放しないとき、バスタイムアウト時間を超えたときにバスタイムアウトとして割り込みが発生します。

SIMは基本クロック(iclk)によって動作するタイム、WUT(Wake Up Timer)を持っています。WUTEビットをセットするとこのタイムは動作状態になります。

### 例外制御と割り込み

割り込みやリセットなどのベクターなどを処理する例外制御部はベクターアドレス生成と割り込み制御機能を持ちます。ペリフェラルからの割り込み要求入力は全部で32本可能です。ソフトウェアの設定により、その割り込み要求入力から12本のペリフェラル割り込みを割り当てる必要があります。それらの割り込みはそれぞれベクターアドレスと割り込みレベルを設定することが可能です。

### 高速割り込み (FINT)

高速割り込み処理では通常割り込みのように例外ベクタを使用せずにあらかじめ設定されたアドレスの内容を実行先頭アドレスとします。

## 5.3 動作モードとそのエントリー

デバイスはいくつかの動作モードを持ちます。通常はユーザーモードで動作しますが、プログラムとデータを初期化する目的で、ユーザーモードに対して異なるベクターを持つブートモードを持ちます。

それらのモードに入るには、TIFM/TRSTB/TCK/TDI信号を使用します。その内容はRESETB信号の立ち上がりで内部に取り込まれますブートモードではブートメモリ内のブートプログラムが動作して、外部デバイスがペリフェラルを通して内部RAMにデータを書き込みます。

電源投入、通信比、オプション変更、外乱などによって、PLLそのものが安定化時間を必要であるとき、比較的長い安定化時間が要求されます。このとき、COP動作は自動的に停止状態にあります。



## 6 XIM016Bアーキテクチャ概要

### 6.1 構成

にコアのブロック図を示します。コアはフロー制御ユニット、命令デコードユニット、データアドレス生成ユニット、データ演算ユニットの4つの部分から構成されます。

フロー制御ユニットでは2つゼロオーバーヘッドループ機構によるループ実行が行なわれます。

命令デコードユニットでは、命令キューによる的可変長命令の整列、命令デコード、分岐命令によるプログラムフロー制御などが行なわれます。また命令キャッシュとのインターフェイスを持ち、キャッシュへの命令登録、キャッシュからの命令実行を行います。

データアドレス生成ユニットは、ポインタ演算用に2つの16ビットアドレス演算器を持っています。この演算器は有効アドレス計算及びポインタレジスタ自動更新のために用いられます。命令毎に最大2つのアドレス生成と2つポインタレジスタの更新を行なうことが可能です。ポインタレジスタの自動更新ではポストインクリメント/デクリメント、リングバッファ用のモジュロアドレッシング、FFT用のビットリバースアドレッシングをサポートしています。

データ演算ユニットでは、演算器として、1つの40ビット ALU、1つの40ビットバレルシフタ、1つの16ビット乗算器を持っています。

40ビット ALUでは16/32/40ビットの算術論理演算を行ないます。40ビットバレルシフタでは最大40ビットデータの+16~-16ビットシフトが行なえます。40ビット長の演算では2本の40ビットアキュムレータレジスタによって演算結果を保持することができます。16ビット乗算器は16ビット × 16ビットの乗算を1サイクルで行い32ビットの乗算結果を得ることができます。ALUと乗算器は、命令によって同時に使用することができます。1命令内で加減算と乗算を並列に実行することで1システムクロック毎に1回の積和演算を実行することが可能です。

#### 6.1.1 アドレス空間

アドレス空間は16ビットで、ワード長が16ビットです。よって64KWordの空間を持ちます。データアドレス/プログラムアドレスとも同じ論理空間内に存在します。

データメモリとして扱う場合、16ビットワードまたは32ビットロングワードとしてアクセスできます。32ビットロングワードとしてアクセスする場合、データは偶数アドレスに整列されている必要があります。

#### 6.1.2 バス

コアは統一された1つの論理空間を持ちますが、ハーバード型のアーキテクチャで構成されており、プログラムバスとデータバスは分離されています。

プログラムバスは1サイクルあたり16ビット分の命令語をメモリより読み込みます。読み込まれた命令語は命令キューによって整列されます。

データバスはリード/ライト共通の32ビットバスが1つと、リード専用の32ビットバスが1つあります。命令によって、2つのデータバスは同時に使用することができます。

- ・ 32ビット リード/ライト共通データバス (Xバス)
- ・ 32ビット リードデータバス (Yバス)
- ・ 16ビット プログラムバス (Pバス)

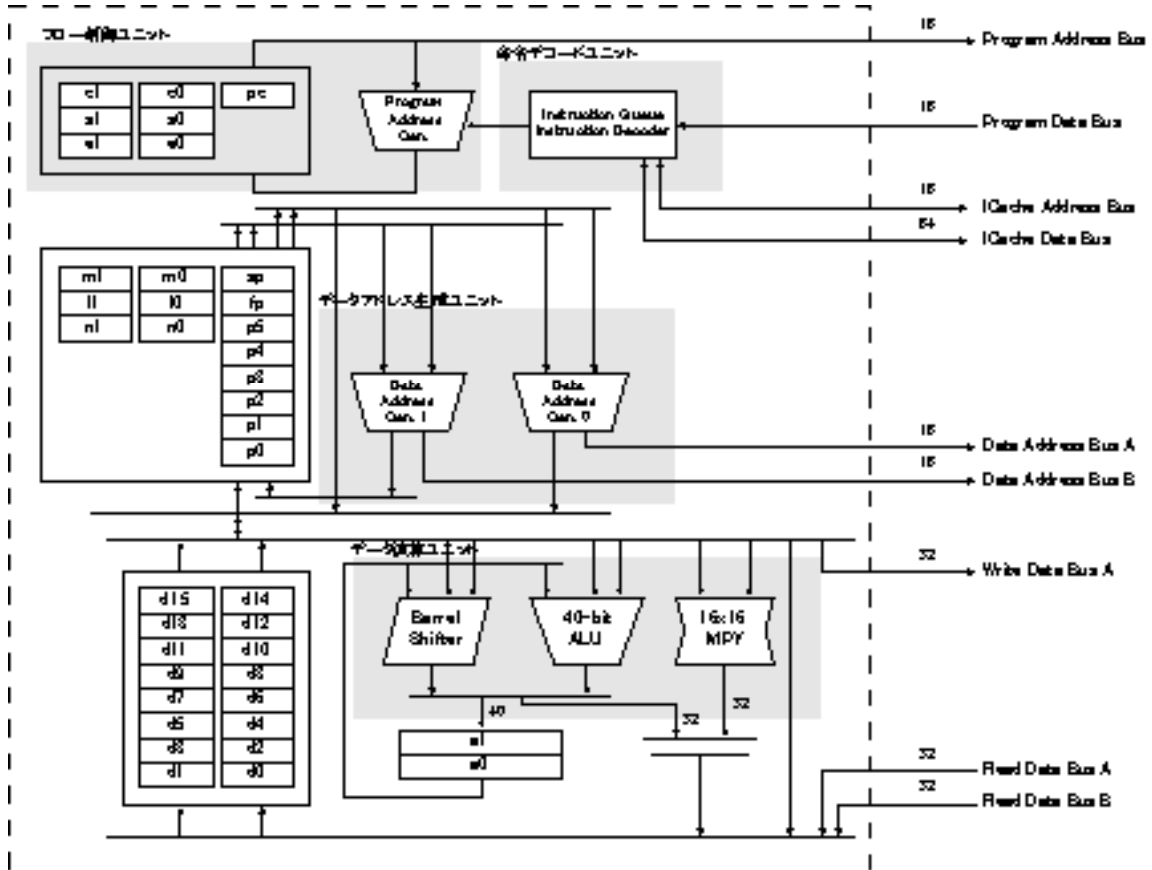


図6-1: コアブロック図

## 6.2 コアレジスタ

レジスタユーザモデルを**レジスタモデル**を示します。

コアのレジスタは16本の16ビットデータレジスタと8本の16ビットポインタレジスタを中心に構成されています。

このほかに、40ビットのアクيومレータレジスタ2本、データアドレス生成の設定レジスタ3本x2セット、ハードウェアループ設定レジスタ3本x2セットなどから成ります。

図6-2: レジスタモデル

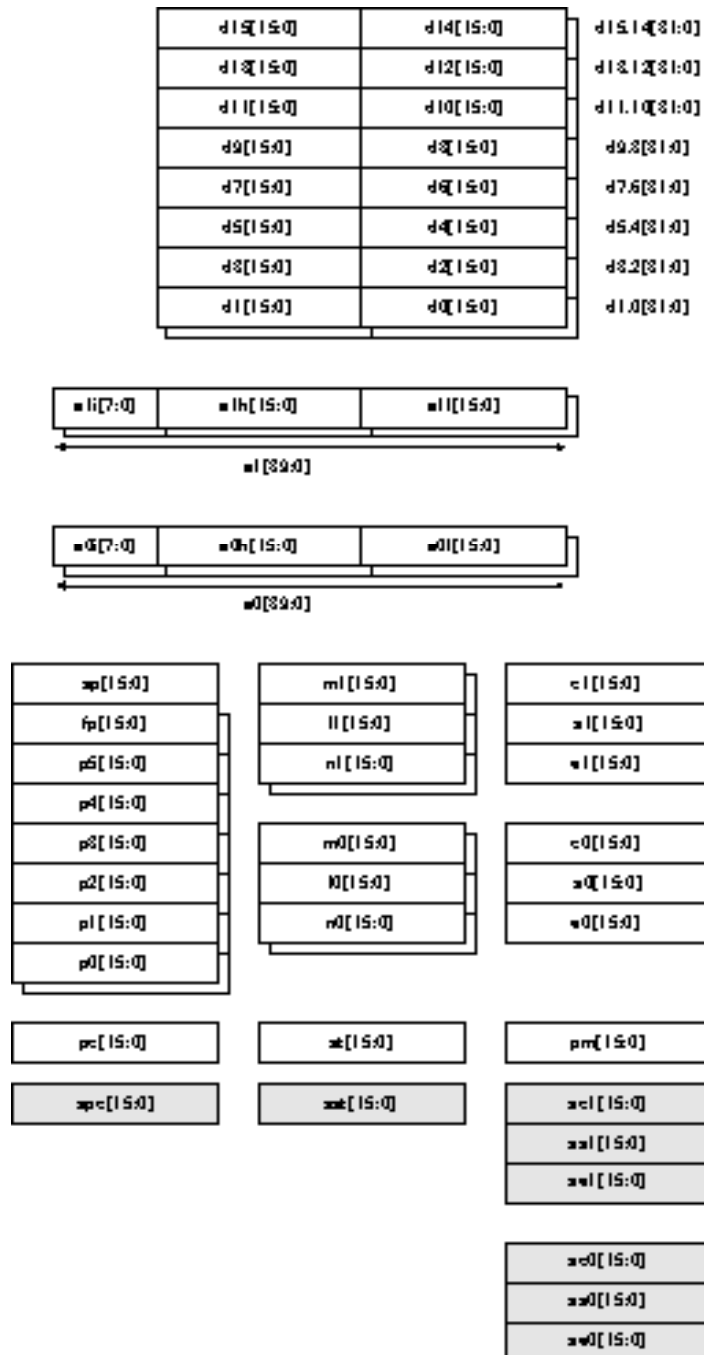


表 8：レジスタの種類

種類	機能	リセット時
汎用データレジスタ d0 - d15 d1.0 - d15.14	d0からd15までの16ビット、16本のレジスタを表します。 通常は16ビットレジスタとして使用されますが、命令によって32ビット、8本のレジスタとして使用できます。	不定
アキュムレータレジスタ a0 a0i/a0h/a0l a1 a1i/a1h/a1l	2本の40ビットレジスタa0/a1を表します。アキュムレータレジスタは8ビットのa0i/a1i、16ビットのa0h/a1h、16ビットのa0l/a1l、と3つの部位に分解してアクセスすることができます。 a0i/a1iを読み出す場合は、最上位ビットであるビット7から符号拡張した値が得られます。これら上位の8ビットは積和演算などの累加算によるオーバーフローを保持するために用いられます。	不定
ポインタレジスタ p0 - p5/fp/sp	p0/p1/p2/p3/p4/p5/fp/spの8本の16ビットレジスタを表します。これらのレジスタはアドレス空間を指示するためのポインタレジスタとして用いられます。 spはスタックトップを指示するためのポインタとして使用されます。 fpはスタックフレームを指示するためのポインタとして、一部の命令で特殊な操作、アドレッシングがサポートされています。	p0-5/fp: 不定  sp: 0xFFDF
ステータスレジスタ st cc	stレジスタを表します。ALU/シフト演算での各コンディションコードビット、割込みレベルを表すビットなどから成ります。 ccレジスタはコンディションコードレジスタで、stレジスタの下位8ビットのみを指します。このシンボルでアクセスする場合、上位8ビットの読み出し/書きこみはできません。	0xC000
動作モードレジスタ pm	pmレジスタを表します。命令キャッシュやストアバッファの設定ビットなどから成ります。	0x0000
プログラムカウンタレジスタ pc	実行するプログラムのアドレスを指示します。プログラムフロー制御命令によって操作されます。	不定
ループカウンタレジスタ c0/c1	2本の16ビットレジスタc0/c1を表します。ハードウェアループ動作でのループ回数カウンタとして使用されます。	0x0000
ループスタートレジスタ s0/s1	2本の16ビットレジスタs0/s1を表します。ハードウェアループ動作でのループ上限アドレスを指示するレジスタとして使用されます。	不定
ループエンドレジスタ e0/e1	2本の16ビットレジスタe0/e1を表します。ハードウェアループ動作でのループ下限アドレスを指示するレジスタとして使用されます。	不定
ポインタモデファイレジスタ m0/m1	2本の16ビットレジスタm0/m1を表します。通常はポインタレジスタの自動更新でのステップ値として使用されます。	不定
バッファサイズレジスタ l0/l1	2本の16ビットレジスタl0/l1を表します。データアドレス生成ユニットの動作モード設定や循環バッファアドレッシング時のバッファサイズ値として使用されます。	0x0000
バッファアドレスレジスタ n0/n1	2本の16ビットレジスタn1/n0を表します。循環バッファアドレッシング時のバッファの先頭アドレスとして使用されます。	不定
pc内部スタックレジスタ spc	高速割込み時にpcレジスタの値がコピーされます。	不定

st内部スタックレジスタ sst	高速割込み時にstレジスタの値がコピーされます。	不定
c0/c1内部スタックレジスタ sc0/sc1	高速割込み時にc0/c1レジスタの値がコピーされます。	不定
s0/s1内部スタックレジスタ ss0/ss1	高速割込み時にs0/s1レジスタの値がコピーされます。	不定
e0/e1内部スタックレジスタ se0/se1	高速割込み時にe0/e1レジスタの値がコピーされます。	不定

### 6.2.1 ステータスレジスタとコンディションコードレジスタ

ステータスレジスタstは16ビット幅のレジスタで、ビット7からビット0は演算のコンディションコードレジスタccで構成されています。このほかに割込みステータスビット、レジスタバンクビットなどがあります。

ビット位置	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
シンボル	I1	I0	FI	EE	-	-	-	B	U	E	S	F	N	V	Z	C

表 9 : stレジスタのビット割り当て

ビット	説明	リセット後の値
C	加算命令の場合、キャリーが発生するとセットされ、そうでない場合クリアされます。減算/比較命令の場合ゼロが発生するとセットされ、そうでない場合クリアされます。	0
Z	演算の結果がゼロの場合にセットされ、そうでない場合にクリアされます。	0
V	演算の結果、オーバーフローが発生するとセットされ、そうでない場合にクリアされます。	0
N	演算結果の最上位ビットがコピーされます。	0
F	演算の結果、オーバーフローが発生するとセットされます。ユーザーが明示的にクリアしない限りクリアされないスティッキービットです。	0
S	演算の結果、飽和処理が行なわれた場合にセットされます。ユーザーが明示的にクリアしない限りクリアされないスティッキービットです。	0
E	アキュムレータをディスティネーションとする演算の結果、アキュムレータのビット39からビット31までが全て1または全て0で無い場合にセットされ、そうでない場合にクリアされます。これは40ビットアキュムレータの値を2の補数とした場合、アキュムレータの拡張ワード部分に有意なデータが存在しているかどうかを指示します。	0
U	コンディションコピー命令ccpによってセットまたはクリアされます。	0
B	レジスタバンクの現在選択されているバンクを表します。	0
EE	エラー例外の発生を表すステータスビットです。エラー例外を受け付けるとセットされます。	0
FI	高速割込みのステータスを表すビットです。高速割込みを受け付けるとセットされます。	0
I0	コアの割込みマスクレベルとして使用されます。	1
I1	コアの割込みマスクレベルとして使用されます。	1

表 10 : stレジスタ内のビット

#### 6.2.1.1 コンディションコードレジスタ

コンディションコードレジスタccはstレジスタの下位8ビットで構成されます。このレジスタにはALU/シフタによる演算のコンディションが格納されます。

一部の命令はシンボルccによってこのレジスタのみにアクセスすることが可能です。

## 6.2.1.2コンディションコード

条件付きブランチ/ジャンプ命令、条件付きレジスタ間転送命令、コンディションコピー命令では以下のコンディションコードを使用できます。

シンボル	condition フィールド	真の条件	意味	比較命令後の意味	ビットの状態
zc	b_00000	Z clear	等しく無い	!=	Z=0
zs	b_00001	Z set	等しい	==	Z=1
gt	b_00010	signed greater than	大きい(符号有り)	>	N=V and Z=0
ge	b_00011	signed greater than or equal	大きい又は等しい(符号有り)	>=	N=V
lt	b_00100	signed less than	小さい(符号有り)	<	N!=V
le	b_00101	signed less than or equal	小さい又は等しい(符号有り)	<=	N!=V or Z=1
ugt	b_00110	unsigned greater than	大きい(符号無し)	>	C=0 and Z=0
ule	b_00111	unsigned less than or equal	小さい又は等しい(符号無し)	<=	C=1 or Z=1
uge/cc	b_01000	unsigned greater than or equal (C clear)	大きい又は等しい(符号無し)	>=	C=0
ult/cs	b_01001	unsigned less than (C set)	小さい(符号無し)	<	C=1
vc	b_01010	V clear	オーバーフロー無し		V=0
vs	b_01011	V set	オーバーフロー有り		V=1
nc	b_01100	N clear	正又はゼロ	>=0	N=0
ns	b_01101	N set	負	< 0	N=1
al	b_01111	always	条件無し(常に真)		-
fc	b_10000	F clear	スティッキーオーバーフロー無し		F=0
fs	b_10001	F set	スティッキーオーバーフロー有り		F=1
sc	b_10010	S clear	飽和演算無し		S=0
ss	b_10011	S set	飽和演算有り		S=1
ec	b_10100	E clear	拡張アキュムレータ不使用		E=0
es	b_10101	E set	拡張アキュムレータ使用		E=1
uc	b_10110	U clear	Uビットクリア		U=0
us	b_10111	U set	Uビットセット		U=1

表 11 : コンディションコード一覧

## 6.2.2pmレジスタ

pm(Processor Mode)レジスタはコア全体の動作モードを切り替える設定ビットから構成されています。命令キャッシュ機能のon/off、ストアバッファのon/off、丸めモードの切り替えビットなどからなります。

ビット位置	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
シンボル	-	-	-	-	-	I64E N	I32E N	ICEN	-	-	-	RM	-	PIOE N	-	SBEN

表 12 : pmレジスタのビット割り当て

ビット	説明	リセット後の値
SBEN	ストアバッファの設定ビットです。 0:ストアバッファオフ 1:ストアバッファオン	0
PIOEN	ポートマップドI/O動作許可ビットです。データレジスタD8-D15に対するRead/WriteがI/Oポートにマップされます。詳細はインテグレーションの仕様を参照して下さい。 0:通常動作 1:ポートマップドI/Oモード	0
RM	rnd命令での丸めモードを選択します。 0:四捨五入 1:偶数丸め	0
ICEN	命令キャッシュ動作許可ビットです。 またこのビットがクリアされているとき、キャッシュは初期化されます。 0:キャッシュ不使用 1:キャッシュ使用	0
I32EN	32ビット長命令キャッシュ登録許可ビットです。 ICENビットと、このビットがセットされている時、32ビット長の命令が命令キャッシュにキャッシュされます。 0:32ビット長命令キャッシュ登録不許可 1:32ビット長命令キャッシュ登録許可	0
I64EN	64ビット長命令キャッシュ登録許可ビットです。 ICENビットと、このビットがセットされている時、64ビット長の命令が命令キャッシュにキャッシュされます。 0:64ビット長命令キャッシュ登録不許可 1:64ビット長命令キャッシュ登録許可	0

表 13 : pmレジスタ内のビット

### 6.2.2.1SBENビット

コアはストアバッファと呼ばれるメモリへの書き込みデータ用一時バッファを持っており、SBENビットをセットするとストアバッファの動作を有効にします。

ストアバッファはメモリへの遅延書き込みを実現することでバス競合によるコアのパイプラインストールを軽減することが可能です。ストアバッファを有効にしている場合、データメモリ空間へのアクセスは命令の実行順と異なる場合があります。

たとえば以下のような命令手続きを実行するとき、

```
mov.w (0x1000), d0
```

```
mov.w d0, (0x1001)
```

ストアバッファが有効な場合、アドレス0x1000への書き込みは一度ストアバッファに保持され、アドレス0x1001からの読み出しが先に処理されます。コアのパイプラインはストールしません。

ストアバッファが無効な場合、アドレス0x1000への書き込み終了を待ってからアドレス0x1001からの読み出しが実行され、その間コアはストールします。この動作は読み書きする相手がメモリである場合、ユーザが特に意識する必要はありません。しかしI/O領域にマップされるペリフェラルに対するアクセスを行なう場合、バスアクセスの順序が意味を持つことがあるため注意が必要です。

以下のケースではSBENビットの状態に関わらずストアバッファを含む書き込みトランザクションが全て処理された後に実行されることが保障されます。

- ・同じアドレスに対するWrite After Read
- ・movp.w命令によるリードアクセス
- ・メモリオペランドに対するビット操作命令

#### 6.2.2.2PIOENビット

XIM016BIはデータレジスタD8-D15に対するアクセスをI/Oアクセスにマップする、ポートマップドI/O動作が可能です。PIOENビットをセットすると、D8-D15への読み書きがI/Oポートへのアクセスになります。

ポートの割り当てはデバイスのインテグレーションによって異なります。

#### 6.2.2.3RMビット

丸め処理で使用されるビットです。

#### 6.2.2.4ICENビット

XIM016BIはプログラムバスのデータ幅が16ビットです。32ビット長の命令、64ビット長の命令を実行する際には、命令フェッチに複数サイクルを使用するため、実行効率が低下します。

XIM016Bの命令キャッシュ機能は32ビット長命令、及び64ビット長命令を一時バッファにキャッシュすることが可能です。キャッシュされた命令を実行する場合、命令フェッチのためのサイクルが不要となり、命令実行を高速化することができます。

ICENビットをセットするとキャッシュ動作が許可され、キャッシュから読み出された命令の実行が可能になります。またICENビットをクリアするとキャッシュされた命令は全て破棄されます。

キャッシュのサイズ、制御方式はデバイスのインテグレーションによって異なります。

#### 6.2.2.5I32ENビット

ICENビットとI32ENビットとがセットされているとき、32ビット長命令のキャッシュ登録動作が有効になります。プログラムバスから読み出されて実行された32ビット長の命令はキャッシュに登録されます。

#### 6.2.2.6I64ENビット

ICENビットとI64ENビットとがセットされているとき、64ビット長命令のキャッシュ登録動作が有効になります。プログラムバスから読み出されて実行された64ビット長の命令はキャッシュに登録されます。

### 6.3 レジスタバンク

コアレジスタの一部はレジスタのバンクをもっています。バンク化されているレジスタはd0 - d15 / a0, a1 / p0 - p5, fp / m0, m1 / l0, l1 / n0, n1レジスタで、それぞれ1つのバンクを持ちます。リセット直後はバンク0の常態にあります。stレジスタ内のBビットにコアレジスタの現在使用されているバンクの状態が表示されます。

Bビットの値を直接書き換えることで、どちらのバンクのレジスタにもアクセスすることが可能です。ただしバンク1(B=1)は高速割込みのサービスルーチンにおけるコンテキストとして使用することを前提としています。このため高速割込みの受付時にはBビットは自動的に1にセットされ、レジスタのバンクはバンク1の方向へ切り替わります。



## 7 ペリフェラル概要

### 7.1 メモリ

このデバイスはハーバードアーキテクチャとして同時にアクセス可能なプログラム専用バスと2つのデータ専用バスを持ちます。メモリ実体としては内蔵RAMで構成されたデータメモリと内蔵OTPで構成されたプログラムメモリを持ちます。

このデバイスはデフォルトでセキュリティロック状態にあります。つまり、デバイスがリセット時にはセキュリティロック状態にあります。低消費電力動作であるときに内蔵RAMと内蔵OTPとRAMはスタンバイ動作に入り、いかなるアクセスも出来ません。

#### プログラムメモリー

ユーザープログラムメモリは0xe000から0xfcffの領域で約8Kワードのプログラム用OTPメモリ、0xffe0から0xfffbの28ワードのベクタRAMなどから構成されます。また、OTPの書き込みについては別仕様で定義します。

OTPのアクセス時間が、バスの要求するノンウェイトのアクセス時間に比べて長い場合は、バスアクセスにウェイトサイクルを挿入してタイミングを合わせる必要があります。

OTP書き込みの際にはVPP端子に標準6.75Vを印加します。OTP書き込みを使用しないときは、VPP端子を0Vにしなくてはなりません。

ブートプログラムはブートROM内に置かれます。ジャンプテーブルとワークエリア、アドレス0xFD00から0xFEFFまでの512ワードのROMにプログラム、0xFFE0から0xFFEFまでの16ワードにベクターRAMとROMを置きます。ブートプログラムコードの最終命令はジャンプテーブルの先頭アドレスにジャンプします。このジャンプテーブルはデータRAM(DRAM)のシステムプログラム領域の先頭アドレス0x0FC0と0x0FC1の2ワードに置かれます。端子の設定により、UARTあるいはMMICによるブート起動が可能です。

#### データメモリ

データ用SRAMは0x0800から0x0fffまでの2Kワードの大きさを持ち、32ビット幅の排他的な読み/書き動作を行うXバスとYバスの2つのポートを持った2ポートRAMになります。また、Xデータバスの書き込みは1ワード(16ビット)幅あるいは2ワード(32ビット)幅で可能です。

この2Kワード空間のうち、0x0800から0x0FBFはユーザーデータ領域として使用されます。0x0FC0から0x0FFFまではシステムプログラム領域と使用され、ユーザーのアクセスは禁止されます。

### 7.2 タイマー

#### 7.2.1リアルタイマー2

リアルタイマー2はリアルタイム制御用の時間間隔を生成する用途で使用されます。

16ビットのプリスケラで分周された1/4から1/65536のシステムクロックあるいは外部入力クロックを選択し、リードライト可能な16ビットのカウンタを2つ使用して任意のカウンタタイミングを生成します。そして2つのカウンタ出力を選択し、16ビットの比較器を持った独立した4つの比較チャンネルを使用して、任意のタイミングで割込みを発生することが出来ます。

#### 7.2.2汎用タイマー(GPT2)

この汎用タイマーはアウトプットコンペア、インプットキャプチャ、基本的なPWM用途、モーター制御用のQE1動作に使えるカウンタAとBを持ちます。また、カウンタBはパルスアキュムレータにも使えます。4つのチャンネル部を持ち、そのチャンネル部はダブルバッファ構造のデータレジスタとロジックコンパレータで構成され、カウンタAとBに選択接続可能になります。モジュール出力はチャンネル毎に設定可能です。カウンタAとB、外部イベント0と1、チャンネル0から3の全部で8本の割込みソースから、ホストに対して最大5本の割込み要求を行うことが出来ます。

最大4本のインプットキャプチャとアウトプットコンペア、パルスアキュムレータ、イベントカウンタ、2つのPWM出力を構成することが可能です。また、PWM動作であるとき、外部イベント入力のトリガにより出力レベルを即座にローレベルにする機能も持ちます。

## 7.3 シリアル

3線式同期通信ペリフェラル (SPI)、非同期通信 (UART)、同期通信 (MMI<sup>2</sup>C) の3つのシリアルモジュールを持ちます。

### 7.3.1 SPI

このモジュールはSPI (Serial Peripheral Interface) フォーマットを持つ同期型のシリアルインターフェースになります。SPIフォーマットを持つデバイスと通信可能な機能を持ち、転送速度は最大3.37Mbpsになります。

このモジュールは可変周波数のシステムクロックと外部クロックを使用します。ユーザーがSPIENビットをセットすると、このモジュールは動作許可になります。このモジュールの最高ビット周波数はマスター/スレーブとも2MHzになります。このモジュールのシステムクロックは24MHz以上、200MHz以内でなくてはなりません。MSBファーストの固定長8ビットになり、そのクロックのレベルと位相の選択は可能です。

SPCK端子は入出でSPIクロック、SPDA端子は入出力でSPIデータA入出力、SPDB端子は入出でSPIデータB入出力、RDYBは入力専用端子でSPIレディに使用されます。SPDA端子とSPDB端子はSPIデータ入力(SDI)とSPIデータ出力(SDO)信号に接続します。RDYB端子はマスターであるとき、使用されません。スレーブではRDY端子はRDYBENビットをセットすると内部使用されます。また、該当する端子はオープンドレインとして動作をします。各入力端子はシュミットトリガ動作をします。

## 7.4 MMI<sup>2</sup>C インターフェースモジュール

このインターフェースはI<sup>2</sup>C (Inter Integrated Circuit:以後I2C) のフォーマットでマルチマスターとスレーブ動作をサポートします。

SCL端子は入出でシリアルクロックを示し、SDA端子は入出でシリアルデータ(双方向)を示します。SDL/SDA端子は、ローレベル出力時にはプルダウン、ハイレベル出力時にはハイインピーダンス状態になります。よって、外部にプルアップ抵抗接続が必要です。また、各入力端子はシュミットトリガ入力です。

SCL端子はマスター動作では出力、スレーブ動作ではアクノレッジサイクルでローレベルに保持するストレッチ動作を行えます。SDA端子はマスター/スレーブ動作とも、有効データや制御レベルを出力する以外では切断されます。

### 7.4.1 UARTモジュール

このモジュールはUARTフォーマットを持つ非同期型のシリアルインターフェースになります。RXD端子は入力で通信データ入力、TXD端子は出力で通信データ出力となります。

送信と受信に別々に8バイトのバッファを持っており、そのバッファリングを使用した動作も可能になります。送信部には送信間隔を制御可能な送信間隔カウンタ、受信部にはボーレート観測用のビット長計測がついています。

送信と受信部の入出力側ではループ動作とシングルワイヤ動作に対応しています。

データ送信では全キャラクタ送信長は1ビット長のSTARTビット、WLSビットで設定される最下位ビット(LSB)から送信される7から8ビット長のデータビット、0から1ビット長のパリティビット、1から2ビット長のSTOPビットの計9ビットから12ビット長に対応可能です。

データ受信ではSTOPビット長は常に1ビットとみなされ、全キャラクタ受信長は計9ビットから11ビット長になります。

レジスタビットで設定される全キャラクタ転送時間以上RXD端子がローレベルであるときにブレイク検出とします。

データ受信期間以外でレジスタビットで設定される全キャラクタ転送時間以上RXD端子がハイレベルであるとき

にアイドル検出とします。受信バイトがセットやSTOPビットなど受信データビットがハイレベルである期間はアイドル期間とはされません。。

TXD端子を一定期間ローレベルにして、センドブレイクを送ることが出来ます。XD端子を一定期間ハイレベルにして、センドアイドルを送ることが出来ます。これらの動作は内部動作に影響を与えません。

LIN動作の補助機能として、LIN動作の開始を示す、ブレーク動作直後の同期バイトの検出とビット周期の計測が行われます。

## 7.5 電源制御用ペリフェラル

電源制御用ペリフェラルとしては電源制御用A/D変換2、差動A/D変換、電源制御用PWM2、微細遅延器2、コンパレータ3があります。

### 7.5.1 電源制御用A/D変換2 (PSATD2)モジュール

このPSATD2モジュールはNJU20300用のA/D変換モジュールであり、アナログ回路で構成されたSARタイプの10ビットA/D変換器で構成されたアナログA/D変換部と、制御あるいは変換データ保管等を行うデジタル回路で構成されます。このA/D変換器は入力チャンネル選択とサンプリングで1ADCクロック、変換で11ADCクロックの合計12クロックでA/D変換を行うことが可能です。

このモジュールはユーザー用の8本のアナログ信号の入力チャンネルとしてAN0からAN7はメイン入力部と奇数チャンネルのAN1, AN3, AN5, AN7はサブ入力部に接続されます。メインとサブ入力回路はそれぞれマルチプレクサとサンプルホールド(S/H)回路を持ちます。そして、これらのサンプルホールド(S/H)回路出力には1つの変換器が接続され、変換結果はデータレジスタに格納されます。また、A/D変換タイミング用に12本の制御入力を使用可能です。

4本の内部較正/試験用アナログ端子であるAN8 から11はメイン入力に接続されます。また、サブ入力部は同時サンプル動作のみに使用されます。

また、このモジュールの割り込みは割り込み要求0から4の5本持ちます。ADCクロック生成用に外部クロックをEXTCLKから入力することが出来ます。この外部クロックは、内部でシステムクロックに同期化使用されます。

PSATD2特徴：

- ・ 1Msps/10-bit 逐次比較型ADCコア
- ・ 8chアナログ入力
- ・ 1ch S/H回路 + 独立1chS/H回路
- ・ 1回変換/メディアン処理/平均変換/連続処理
- ・ 17出力レジスタ
- ・ 変換後データ処理
- ・ 右左ビット詰め
- ・ オフセット値加減算
- ・ 変換値リミット処理
- ・ A/D開始トリガ入力
- ・ ソフトウェアトリガ
- ・ 内部タイマトリガ
- ・ 15制御入力
- ・ PWM波形に同期した変換

また、このモジュールは割り込みとして、割り込み要求0から4の5本持ちます。

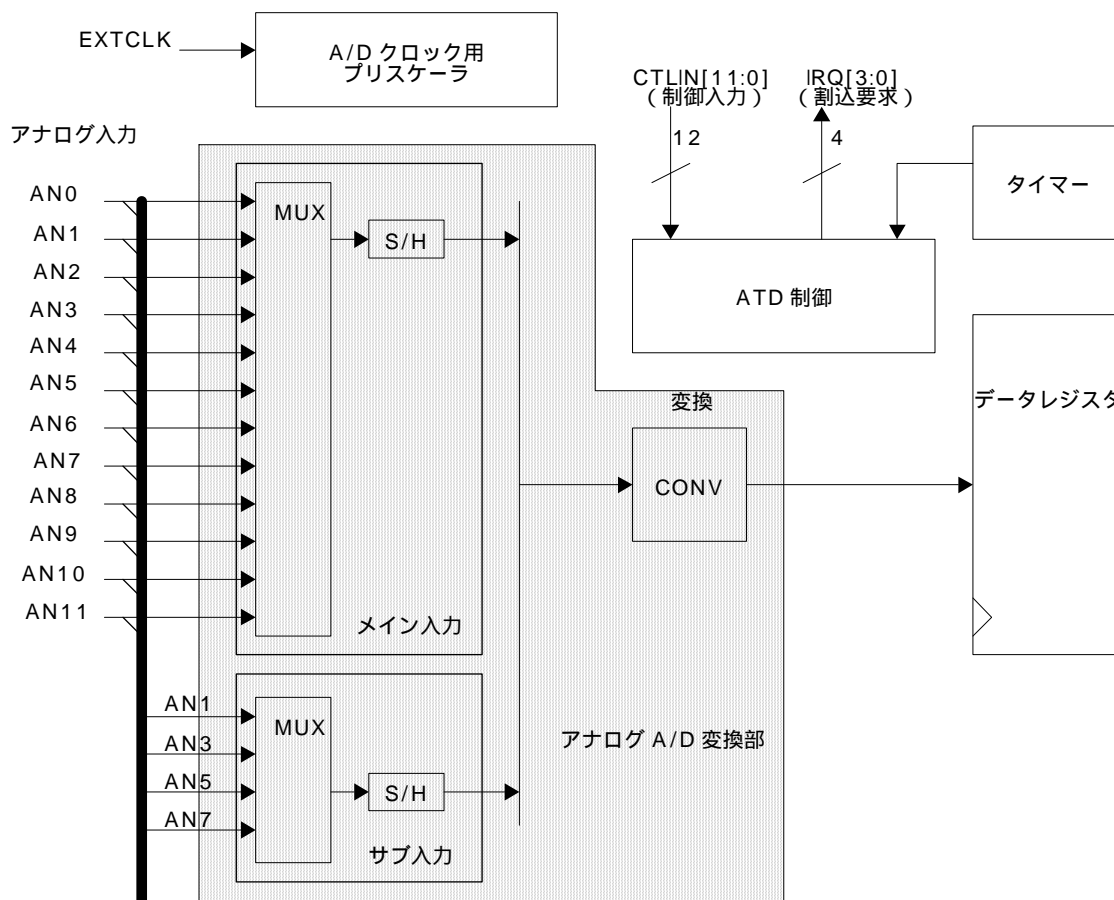


図7-1: 電源制御用A/D変換器2ブロック図

A/D変換器で使用するクロックはADCクロックと呼びます。このADCクロックは内部システムクロックを設定により1/1から1/4分周して生成します。また、外部非同期入力信号を内部同期化してADCクロックとしても使用できます。

このペリフェラルは24ビット長のフリーランのタイマーを持ちます。このタイマーはA/D変換の開始タイミングに使用可能なタイマークロックを生成します。アナログA/D変換部にはメインとサブ側の合計2つのサンプルホールド(S/H)回路を持ちます。サブS/H回路は同時サンプル動作でのみ使用されます。

**ADC変換**

このモジュールは全部で8本のアナログ入力チャンネルがあります。それぞれチャンネル毎に変換用の設定が可能です。複数のチャンネルが同時にA/D変換の要求があると、番号の小さいチャンネルが先に変換されます。A/D変換が終了すると、変換結果をデータレジスタに格納と同時に入力チャンネル毎が持つ変換終了ビットがセットされます。このビットがセットしているときにホストに割込を要求できます。1入力チャンネルの変換終了ごとに変換終了ビットがセットされます。

このPSATDモジュールで使用するA/D変換器は逐次比較器型であり、実A/D変換器によるA/D変換期間は最小12ADCクロックになります。このうち、サンプル期間は最小1ADCクロック、引き続き11ADCクロックで変換を行います。

実A/D変換器にはADCクロックが入力されますが、実A/D変換器が動作中で無いときは、ADCクロックを停止させることが可能です。このクロック停止期間は実A/D変換期間以外になります。

### 入力チャンネル毎のA/D変換処理

A/D変換処理は制御入力、ソフトウェアあるいは内部タイマーによるA/D変換開始トリガを使用して変換を開始します。

A/D変換開始トリガによる1チャンネル変換あるいは複数チャンネルの同時サンプル後変換も可能です。また、同時にA/D変換開始トリガを入力すると、チャンネル間の優先順位による調停により、調停期間にアサートされたチャンネルのうち常に優先順位が高いチャンネルがA/D変換処理に入ります。サブS/H回路は同時サンプルのみに使用され、チャンネル番号は奇数チャンネルだけを使用します。

このA/D変換方法にはA/D変換開始トリガ1回による1回の変換処理、3回の変換で真ん中データを出力するメディアン処理、2回の変換で平均値を出力する栄金処理、A/D変換をし続ける連続処理があります。

A/D変換のS/H時間はソフトウェア設定により設定可能です。また2本のA/D変換開始トリガを使用して、サンプルウィンドウ動作あるいは非同期サンプルウィンドウ動作が可能です。非同期サンプルウィンドウ動作を使用すると、ノイズから逃げるためにPWM波形変化前の位置でS/H回路をクローズすることが可能です。

### 変換後の処理とデータ

変換されたデータはポストデータ処理、変換データ処理を施して、データレジスタに格納されます。

変換した12ビット幅のデータの読み出しは16ビット幅のデータレジスタの下位位側詰め符号無し、セットすると上位詰め符号無しを選択できます。A/D変換後のデータは参照データとの加算あるいは減算処理を行い、データ格納することも可能です。入力チャンネルxの加算と減算の選択、ポスト処理データの12ビットあるいは13ビット格納、アンダーやオーバーフローの飽和処理を設定します。

ビット幅や飽和処理の設定に関わらず、12ビット演算でのアンダーやオーバーフロー結果はホストビットに内容を反映します。変換終了にアンダーやオーバーフロー検出を行います。

### 割込み

このPSATDモジュールはホストに対して最大5本の割込み要求を出来ます。

割込みを発生できるリソースは全部で30本あります。それぞれの割り込み要求リソースが持つ割込み状態ビットがデバイスによりセットされ、ホストにより対応する割り込み許可ビットがセットされているとき、モジュール内リソースからホストに割り込み要求を行うことが出来ます。

デフォルトではすべての割込み要求リソースに対して1本の割込み要求0が使用されます。また、ホストビットを使用すると割込み要求1から4の4本の割込み要求信号に対して、任意の割込みソースに対して割込み要求を与えることが出来ます。この設定で使用される割込みソースは割込み要求0から除外されます。

## 7.5.2 差動A/D変換 (DAD) モジュール

この差動A/D変換モジュールはアナログ入力に対して参照入力とのアナログ電圧差を最小10ビット精度で6ビットのデジタルコードに変換する差動A/D変換処理を行います。4チャンネルのアナログ入力と参照入力のペアを持ちます。また、この参照入力は外部端子もしくは内部のD/A変換出力を使用します。

このモジュールのハードウェアは差動A/D変換を行う実体A/D変換器、実体D/A変換器、マルチプレクサなどからなるアナログ回路部と制御するデジタル回路部からなります。

このA/D変換器は入力チャンネル選択とサンプリングで1ADCクロック、変換で5ADCクロックの合計6クロックでA/D変換を行うことが可能です。

4チャンネル分のアナログ入力と参照入力用のマルチプレクサ、そしてその出力にマルチプレクサとサンプルホールド(S/H)回路を持ちます。そして、これらのサンプルホールド(S/H)回路出力には1つの変換器が接続され、変換結果はデータレジスタに格納されます。

アナログ入力は外部端子から入力され、参照入力は外部端子あるいは内部D/A変換器出力を使用可能になります。

A/D変換の開始は7本の制御入力あるいはソフトウェアによって行います。各チャンネルのA/D変換終了毎に計4本の割込みを要求することが出来ます。

DAD特徴：

- ・ 最高8Msps/6-bits(10-bit精度) 差動型ADCコア
- ・ 30MHz動作内蔵6bitD/A変換器
- ・ 4chアナログ入力/参照入力
- ・ 1ch S/H回路
- ・ 1回変換/メディアン処理/平均変換/連続処理
- ・ チャンネル毎に1出力レジスタ
- ・ 変換後データ処理
- ・ 右ビット詰め
- ・ オフセット値加減算
- ・ 変換値リミット処理
- ・ A/D開始トリガ入力
- ・ ソフトウェアトリガ
- ・ 7制御入力
- ・ PWM波形に同期した変換

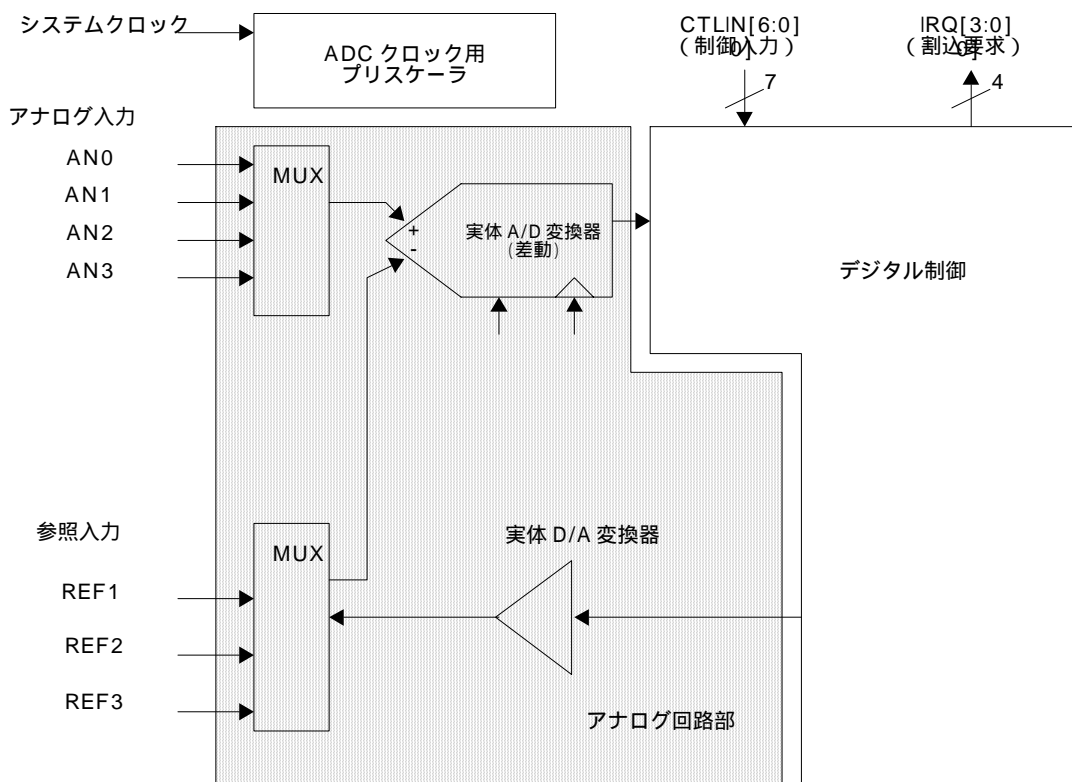


図7-2: DADCモジュール内部ブロック

A/D変換器で使用するクロックはADCクロックと呼びます。このADCクロックは内部システムクロックを設定により1/1から1/8分周して生成します。

アナログA/D変換部には4セットのアナログ入力と参照入力用マルチプレクサに接続されたサンプルホールド(S/H)回路を持ちます。

### ADC変換

このモジュールは全部で4本のアナログ入力チャンネルがあります。それぞれチャンネル毎に変換用の設定が可能です。複数のチャンネルが同時にA/D変換の要求があると、番号の小さいチャンネルが先に変換されます。A/D変換が終了すると、変換結果をデータレジスタに格納と同時に入力チャンネル毎が持つ変換終了ビットがセットされます。このビットがセットしているときにホストに割込を要求できます。1入力チャンネルの変換終了ごとに変換終了ビットがセットされます。

このDADモジュールで使用するA/D変換器は差動型であり、実A/D変換器によるA/D変換期間は最小6ADCクロックになります。このうち、サンプル期間は最小1ADCクロック、引き続き5ADCクロックで変換を行います。このS/H時間はソフトウェア設定により設定可能です。

実A/D変換器にはADCクロックが入力されますが、実A/D変換器が動作中で無いときは、ADCクロックを停止させることが可能です。このクロック停止期間は実A/D変換期間以外になります。

### 入力チャンネル毎のA/D変換処理

A/D変換処理は制御入力、あるいは、ソフトウェアによるA/D変換開始トリガを使用して変換を開始します。

同時にA/D変換開始トリガを入力すると、チャンネル間の優先順位による調停により、調停期間にアサートされたチャンネルのうち常に優先順位が高いチャンネルがA/D変換処理に入ります。

このA/D変換方法にはA/D変換開始トリガ1回による1回の変換処理、3回の変換で真ん中データを出力するメディアン処理、2回の変換で平均値を出力する栄金処理、A/D変換をし続ける連続処理があります。

アナログ入力は外部端子から入力されますが、参照入力は外部端子あるいは内蔵DAC出力を選択します。

リファレンスレベルで設定した電圧値を基準に6ビット(64レベル)の変換範囲を設定し、この変換範囲内の電圧レベルを持つアナログ入力(ANx)を0から63の6ビット幅のデジタル値に変換します。

リファレンスレベルとアナログ入力一致したときは、A/D変換器の出力は32になります。正方向の最大値では63、負の最大値は0となります。この出力値は一致出力で0、正方向の最大値が31、負の最大値-32になる設定も可能です。

この1ビット幅はゲインレベルの設定でVRLからVRHを基準に10ビット(=1/1024)精度から8ビット(=1/256)、6ビット(=1/64)まで設定可能です。

### 変換後の処理とデータ

変換されたデータはポストデータ処理、変換データ処理を施して、データレジスタに格納されます。

### 割込み

このDADモジュールはホストに対して最大4本の割込み要求を出来ます。

### 7.5.3電源制御用PWM2 (PSPWM2)モジュール

この制御用 (PSPWM)モジュールは電源制御に特化したPWM波形を生成します。このモジュールはPWM波形出力 (PWM0とPWM0B)を6本持ち、イベント入力に使用できる制御入力 (PWMI)は3本、割込み要求は6本持ちます。また、A/D変換器などに対するタイミング出力として使用出来る制御出力 (PWMC0)を14本持ちます。

このモジュール出力に微細遅延モジュール (HRDG2)を接続して、微細遅延データを生成することも可能です。

PSPWM特徴は：

- ・ PSPWM(Power Supply PWM)
- ・ 3ch/6PWM出力(2出力/1ch)
- ・ システムと独立した動作クロック設定~62.5MHz/250MHz
- ・ 全てのPWM出力で、最高2ns精度のPWM波形を生成
- ・ 逡倍クロックを波形生成に使用
- ・ 動作モード
- ・ 1ch毎に設定可能
- ・ 相補付きPWM
- ・ 任意の動作モードでチャンネル間リンク
- ・ イベント動作
- ・ 内蔵コンパレータ出力接続可能
- ・ Pulse-by-Pulse/PeriodCut Limit他
- ・ ADC制御トリガ出力
- ・ 15本のPWM同期トリガでADCを制御



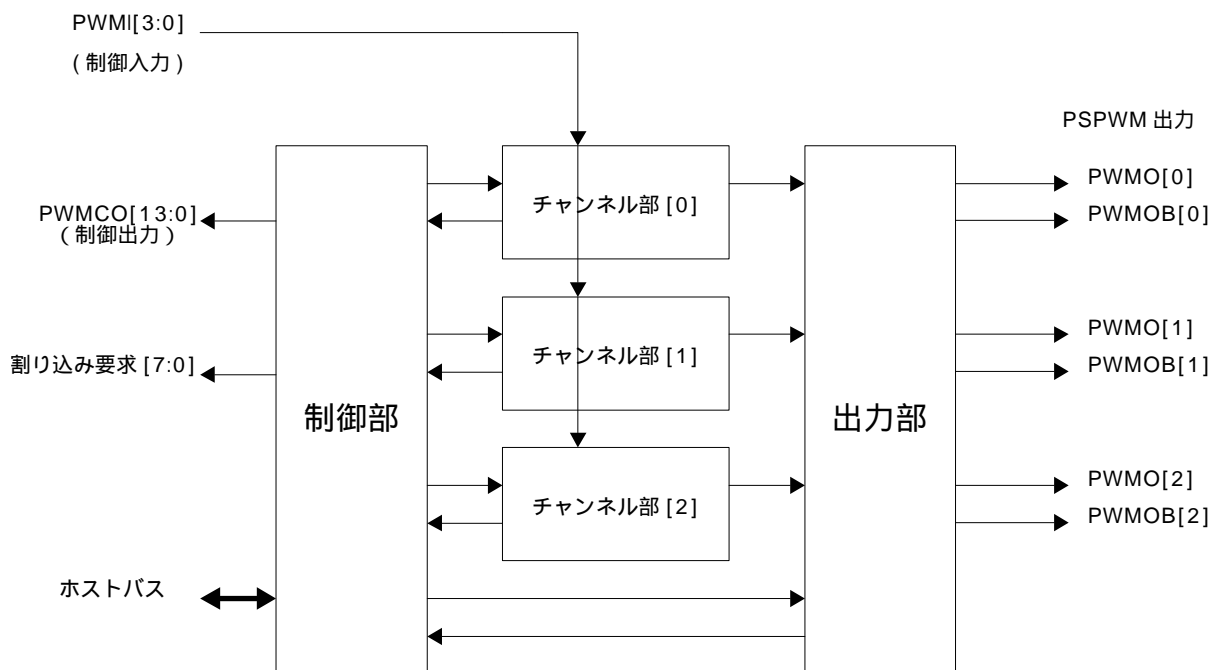


図7-3: PSPWM全体

PWM波形精度は最大16ビットで最小2nsの分解能を持った波形出力を行うことが可能です。複数のチャンネルを使用した位相シフト動作や周波数制御による周期変調でも、最小2nsの分解能を持った波形出力が可能です。

選択された制御入力にアクティブなイベントが入力されると、ブランキング用ゲート処理を行わせて、非同期イベント機能であるピリオドカットやデューティカット、またキャプチャ動作を行わせることが可能です。

ホストに対して最大8本の割り込み要求を出来ます。割り込みを発生できるリソースは全部で28本ありますが、PWMチャンネル毎に4本の割り込み要求となります。この全チャンネル合計で12本の割り込み要求をホストに対する8本の割り込みに振り分けます。

PWMチャンネル部は全部で3チャンネル分あります。それぞれ、PWMO[x]とPWMOB[x]という2つの出力を持つPWM波形生成を行うブロックです。

### 動作方式

基本PWM動作方式にコンプリメンタリ出力を付加した相補付きPWM動作方式はPWMO[x]出力とPWMOB[x]出力の2つの出力を使用し、カウンタ周期は12ビット、波形出力は16ビット精度で最小2nsの分解能を持ちます。

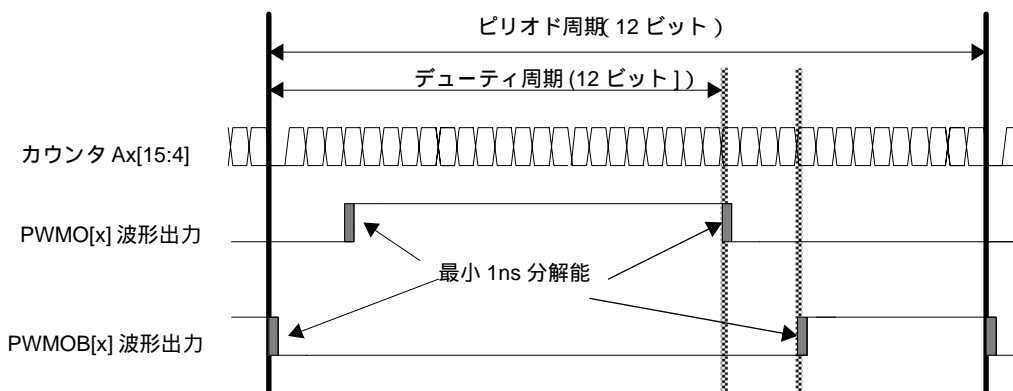


図7-4: 相補付きPWM波形

**ピリオドカットとデューティカット、キャプチャなどのイベント機能**

デューティカットはカウンタは変化せずに出力中の波形を非同期/同期で任意のレベルにします。復帰手段として、ピリオド境界で自動的に復帰するハードウェア復帰と、ソフトウェア操作による手動的に復帰させるソフトウェア復帰という2つの方法があります。そのレベル復帰はピリオド周期のタイミングで行われます。また、動作方式に依存しますが、デッドタイム付きのデューティカットも可能です。この動作は過電圧や過電流検出による、出力の遮断などに使用されます。

ピリオドカットはカウンタをクリア、出力中の波形を非同期/同期で任意のレベルにします。これはサイクルバイサイクルなどで使用されます。

キャプチャ動作では選択された制御入力のアサートされると、カウンタの内容をレジスタに保持します。

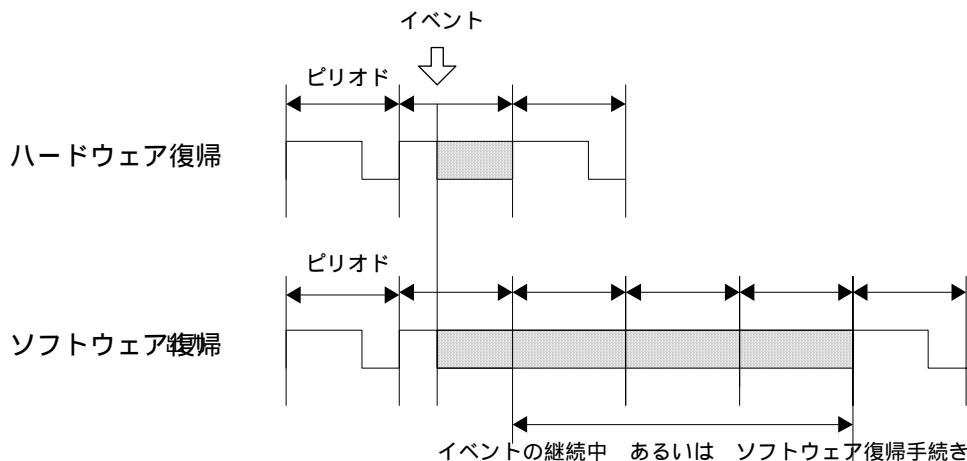


図7-5: デューティカット動作後の復帰手段

**PWMチャンネル**

PWMチャンネル部ではレジスタとカウンタ動作によるもの6本と制御入力によるもの3本の合計9本の割込みソースを持つことが可能です。

また、PWM出力はソフトウェアによりレベル設定が可能であり、非同期の外部イベントによる出力レベルの強制設定なども可能です。

PWMチャンネル動作方式は相補付きPWM、相補付きPWM2、2相PWM、基本PWMの4種類の動作方式が可能です。いずれかの動作方式を選択、そして他のホストビットで詳細な動作方式を定めます。

**複数チャンネル連携（リンク）動作**

0から3の4つのPWMチャンネルに対して、単独PWM動作、そして、複数のチャンネルを同期動作させるチャンネル同期PWM動作、複数のチャンネルで連携動作を行う位相シフト同期PWM動作をさせることが可能です。それぞれの設定はPWMチャンネル制御部で行います。位相シフト制御では最小1nsの分解能を持った波形出力を行うことが可能です。位相シフト制御はマスター側とスレーブ側の2つのPWMチャンネルを使用します。以下にリンク動作を使用した例を示します：

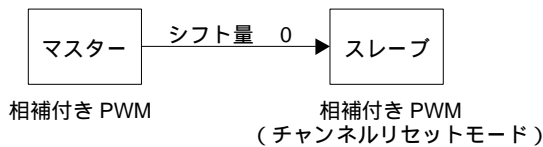
3相PWM動作では最小1nsの分解能を持った波形出力を行うことが可能です。この動作は位相シフトPWM動作あるいはチャンネル同期PWM動作を使用して構成できます。

可変周波数制御では最小1nsの分解能を持った波形出力を行うことが可能です。可変周波数によるPWM出力にはデューティを固定比（例えば50%）にして、ピリオドを変化させます。

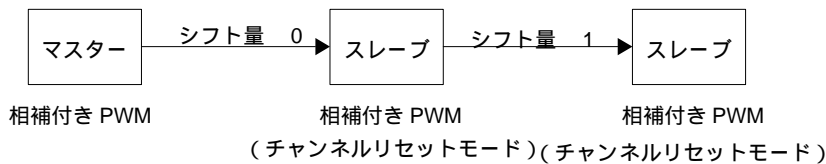
最小1nsの分解能を持つ2相PWM動作方式を使用すると対称波形を持ったPWM波形を生成することが可能です。この波形出力でも3相PWM波形出力も可能です。

同一ピリオドを持った複数PWM出力も可能です。

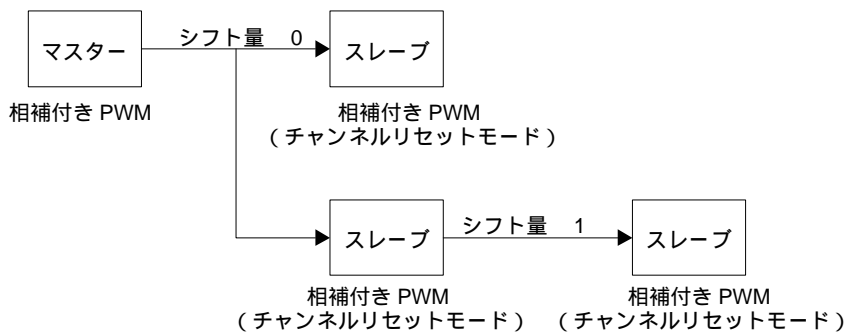
**位相シフト制御 PWM**



**3 相 PWM**



**マニュアル位相 PWM**



**位相シフトPWM動作例**

### 7.5.4高精度遅延生成2 (HRDG2)モジュール

PWM生成器は内部のPWMクロックに同期して、数十から数百kHz程度の周波数を持ったPWM波形を出力します。このジュールはPWM生成器の出力に接続し、高精度のPWM出力を生成する目的で微細な遅延を持たせます。

このモジュールは6本のPWM出力に対して立ち上がり立ち下がりに対して微細な遅延を与えて出力します。この微細な遅延量は前段に接続されたPWM生成器から送られます。

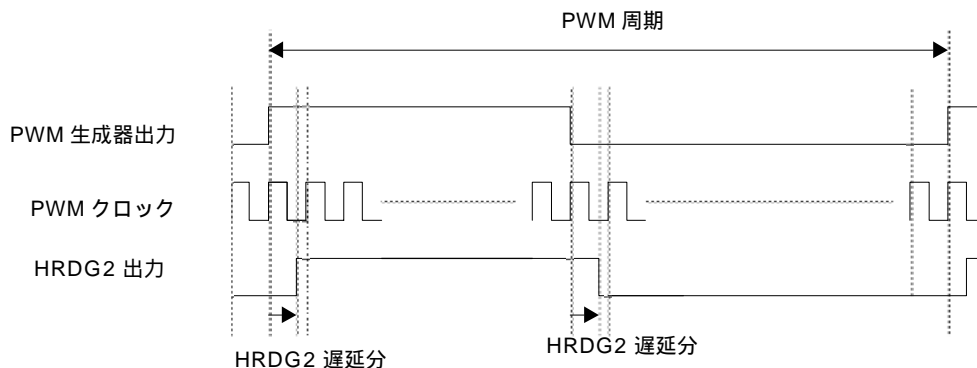


図7-6: HRDG2出力

このモジュールはPWMクロック周波数範囲内で動作をさせる必要があります。この定められたPWMクロック周波数範囲内においても、その周波数により保証できる遅延量と分解能は異なります。このPWMクロックの動作周波数の最大5ビットの分解能を持ちます。この分解能はアナログ遅延素子を使用しているために、温度・電源電圧・製造ばらつきによりその大きさが異なり、その遅延セルのゲイン設定などで遅延値を制御することにより、使用可能になります。

この1ビット分解能からHRDG2で使用するPWMクロック周波数と分解能の関係は62.5MHz近辺で動作させるには4ビット分解能、31.25MHzで動作させるには5ビット分解能が設定可能です。

PWM出力はデジタル制御部で立上り/立下り検出、マルチプレクサ選択出力などのデータ処理を経て、複数のPWMクロック後に同期して、アナログ遅延部へ出力されます。そしてアナログ遅延を受けてモジュールの出力されます。データ処理期間はアナログ遅延器への遅延データの送出などの使われます。

### 7.5.5コンパレータモジュール

コンパレータモジュールは2チャンネルの非同期型比較器と1チャンネルの同期型比較器から成ります。それぞれのチャンネルは個別に動作をし、このモジュールは2つの10ビットD/A変換器を持ちます。D/A変換器0はチャンネル0専用、D/A変換器1はチャンネル1と2の共用になります。

チャンネル毎に比較器の同期出力信号と非同期出力信号を持ちます。また、ホストに対する割り込み要求数はチャンネル毎に1本ずつ、合計3本になります。割り込み要求信号は同期信号 (IRQ) とスリープ用非同期信号が出力されますが、その使用は排他的になります。

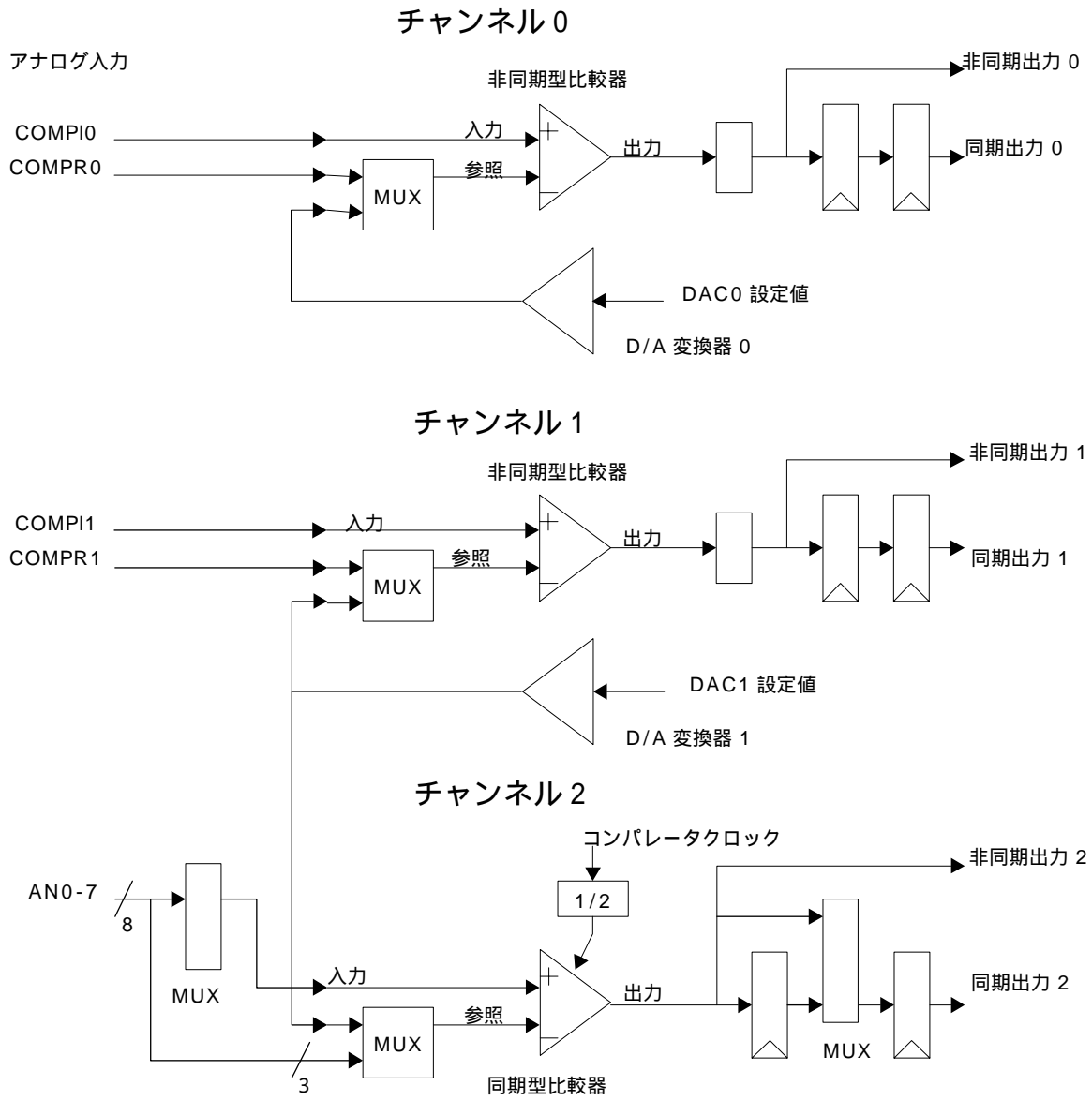


図7-7: コンパレータ部ブロック図

## 7.6 その他のペリフェラル

### 7.6.1 外部高速割込み (EXTHIRQ)

外部高速割込みは2本の外部割込入力可能にし、同期化された外部割込み要求とスタンバイ動作復帰用の外部割込み要求を2セット持ちます。

## 7.7 汎用入出力ポート

ユーザー用端子を制御します。端子レベルの読み出し、出力ドライブの有無、そして内部モジュール接続機能を持ちます。内部は端子のドライブや入力機能を持つ端子入出力部、内部モジュールと端子入出力部のブリッジ回路である端子接続選択部、モジュール用の同期化回路やフィルタなどからなるモジュール入力生成部からなります。

このモジュールが取り扱う外部端子は双方向端子のポートAの4 から 7、ポートBとポートC、そしてポートDになります。これらのすべての端子の出力ドライブの有無と出力レベル、そして端子レベルに読み出しを可能にします。また、それらの端子に内部モジュールの端子のプログラマブル接続可能です。

それぞれの端子は設定/アクセスにより、出力ドライブの有無と出力レベル、端子レベルの読み出し、内部モジュールの出力がホスト設定により設定可能になります。ソフトウェアにより、端子入力としての端子レベルの読み出し、また端子出力としてに任意のレベルを出力することが出来ます。

## 7.8 デバッグ

デバッグと出荷検査用のペリフェラルとしてバウンダリスキャンとデバッグ機能を持ちます。

<注意事項>

このデータブックの掲載内容の正確さには万全を期しておりますが、掲載内容について何らかの法的な保証を行うものではありません。とくに応用回路については、製品の代表的な応用例を説明するためのものです。また、工業所有権その他の権利の実施権の許諾を伴うものではなく、第三者の権利を侵害しないことを保証するものではありません。